大日本蠶絲會報

第貳拾八號

明治二十七年十月

目次

●論說
◎繭生絲解說（承前）　東京　高橋信貞
●寄書
◎露國の組業　東京農學士田原休之丞
●統計
◎生絲及屑物の集散◎八月中生絲屑物輸出數量元價及取稅統計◎八月中絹布類輸出數量及元價統計◎九月中横濱生絲手合高最高價格及外國爲替相場表
●問答
◎蠶蠶の原因研究に就て問ふ井に答◎蠶兒及原種に就て問ふ井に答◎桑樹及蠶病消毒法質問井に答
●外報
◎二十六年中日淸間の貿易
●雜報
◎米國生絲商況の一斑◎淸國蚕の英人とは取引せず◎淸國産絲の好評◎宇津宮大蠶社の盟日磯談◎關東蠶絲業者の大會◎買入れ生繭の審査◎蠶組に就て金子氏の意見◎佐々木博士の駁擊◎神戸生絲市場の不振◎新發明の蠶種販賣法◎蠶種下附願人員及枚數◎次官の演說及生徒の答辭◎佐藤栃木縣知事の祝辭◎駱蜂蠶種を貪す◎横濱市場生絲の商況◎日本蠶種貯藏株式會社◎出張員歸京

●特別廣告

拜啓各位益御多祥欣賀の至りに候陳者當蠶絲會報豫て廣告仕候通第廿五號より改良を加へ出版仕候は各位の明知せらるゝ所に有之然るに或る事情の爲め尚少しく表紙其他に於て躰裁上の變更を爲さゞる可からざるこゝと相成第廿六號より改正相加へ申候尤も論說以下所載の記事に至りては毫も變ずるとなきのみか一層精確適實なるものを撰擇し誓て蠶絲業界の指鍼たるの實を擧げんことを期したれば請ふ此旨を諒せられんことを就ては追々御催促申上候通會費未納の諸君は何卒速に御送金被成下會計上の進行に滯滯を避けしむるやう偏に御留意あらんことを希望す

大日本蠶絲會幹事長

岡毅

●廣告

一爲替は東京市神田郵便電信支局へ向け御振込の事

一郵便切手代用は一割增にて五厘切手に限る事

一現金送附は通運會社より本會迄の持込賃を添附せらるべき事

一郵便切手又ははがきを送附し若くは往復はがきを以てして回答を要せらるゝ外は返信を發せざる事

一原稿は帶封又は挾封として發送せらるべき事

一原稿料紙は半紙又は美濃紙（十行二十字詰め若くは十三行二十四字詰め）を用ひ其字躰は楷書或は行書にて可成明瞭に認めらるべき事

大日本蠶絲會

本誌廣告料　一行五號活字廿二字詰前金八錢十行以上に至るものは一割引

本誌定價　一ヶ年分　一冊　前金拾貳錢　前金壹圓貳拾錢

大日本蠶絲會報第貳拾八號

●論說

◎繭生絲解說（承前）

東京　高橋信貞

第三章

桑の說明

早桑

第一號　市平

此桑は萠芽極めて早きを以て稚蠶を飼ふべし然れども稍々伸長すれば其葉强硬となり葉裏に疎々茸毛を生ずるを以て二齡以後の蠶飼に適せず是を以て多く栽培を要せざるなり

第二號　柳田

此桑は葉芽の萠すに先ちて花蕾を生ず發芽の期市平に伯伸すれども葉の伸長稍々緩慢なるを以て稚蠶を飼ふには前者に及かず然れども葉の伸長緩慢なるが爲め稍々長大なるも亦能く柔軟なるを以て四齡後の蠶飼と なすに足る

第三號　青木

此桑は前二者に比すれば萠芽稍々遲く其葉長大なるも亦能く柔輭なるを以て二齡より四齡に至るの間蠶飼となすべし

第四號　九文龍

此桑は萠芽の期青木に比すれば少しく早きを以て稚蠶をも飼ふべし其葉は長大なるも亦能く柔輭なるを以て四齡後の蠶飼となすに足る

曉桑

第五號　高助

此桑は萠芽遲く葉形大にして豐厚なり然れども亦能く柔輭にして五齡の蠶飼に適す

第六號　鼠返

此桑は萠芽の期稍々前者に同じけれども葉形小にして薄し然れども枝條多く生じ葉量少からず能く五齡の蠶飼に適す

本邦桑樹の名稱無慮一百有餘ありと雖も今回出品する所の六種は汎く邦内に行はれ最も良好なるもののみを撰拔したるものなり

第四章

繭の說明

第一號　赤熟

此繭を結ぶ蠶は蛻皮期及び老熟期に至れば稍々赤色を帶ぶるを以て此名あり發育他の蠶に比すれば緩慢なるを以て飼桑多く其體肥大繭層厚堅故に絲量多くして絲質强し然れども纖維稍々太きに過ぎ精細なる生絲を繰製するに方りては繰度を均一ならしむるに困難なるより目下之が改良を務めたり

第二號　青熟

此繭を結ぶ蠶は蛻皮期及び老熟期に至るも著るしく變色せざるを以て此名あり發育赤熟に比すれば稍々速かにして纖維細く光澤美なり絲量赤熟に及かずと雖も能く精緻の生絲を繰製し得べき良種なり

第三號　小石丸

此繭を結ぶ蠶は其體青熟に比すれば小なりと雖も資性活潑にして發育速かなり繭の形狀短小にして硬堅石の如くなるより此名あり絲量は赤熟青熟に比すれば少なしと雖も飼桑少なくして飼育し易きより廣く邦内に行はる之が纖維は細美なるより精細なる生絲の製造素品たるべく又此生絲は佛國の如き巧緞の機織に適すべき佳品たるべし

第四號　鬼縮

此繭を結ぶ蠶は赤熟に比すれば發育稍々速なれども亦能く肥大にして吐絲多く繭層厚堅なり此繭は縮緬他の繭に比すれば頗る粗大なるを以て此名あり然るに纖維は夫の粗大なるに似ず細く且つ長し故に精良の生絲を繰製し得べきなり

第五號　清白

此繭を結ぶ蠶は其體前數者に比すれば小なりと雖も資性活潑にして發育最も速かなり繭の形狀は小にして恰も鳥卵の如し其絲量多からずといへども飼桑少なくして飼育甚だ易し纖維は細緻にして鮮美なり此種は繭形不齊且つ絲量少なきが爲め廣く邦内に行はれずと雖も精細なる生絲の製造素品としては他に匹敵すべき佳品あるを見ざるなり

本邦家蠶の名稱無慮一百有餘ありと雖も其種類に至りては僅々數種に止まれり今回出品する所の五種は汎く邦内に行はるゝものと歐米二洲の需要に充つべきの生絲の原料に適應せるものゝみを撰拔したるものなり

第五章

養蠶法

日本の蠶卵は伊太利佛蘭西等の蠶卵に比すれば其形狀稍々小にして重量も亦稍々少なし今本會へ出品せる繭の蠶卵及び伊、佛二國の蠶卵一萬顆の重量比較を左に示すべし

蠶卵一萬顆に對する重量	種類	重量	種類	重量
日本	赤熟	一、四二瓦	日本 鬼縮	一、三七瓦
日本	青熟	一、三七	日本 清白	一、二八
日本	小石丸	一、二八	伊佛 金黃	一、九九

蠶蚁の卵を產みたるの當初は其卵殼も柔軟なれば專ら靜肅を旨とし卵紙をば平かに安置して五六日を經卵殼已に堅硬にして其色變ずる後靜閑にして清涼なる室内適宜の箇所に吊るし冬季は殊更に大氣流通良き最も清涼なる室内に貯へ置けり此際若し攝氏十六度以上の温に感ぜしむるときは幾分か孵化の氣を催すの虞あればなり

蠶卵孵化の方法は桑葉萠芽の時期を考へ蠶卵をば孵化室に移すなり孵化室の温度は貯藏室の温度より一二度を高め置くを良しとす夫より桑樹の發芽を慮り一日に一度位温度を進め其温度二十四度乃至二十五度日數十日乃至十四五日にも達すれば發生を催すものなり故に温度は漸次に高むるを法とす然れども室内乾燥に過ぐるときは卵中に於て蟻體を形づくる爲めに害あり是を以て時としては室内に水を撒布し又は桑の葉を以て卵紙を包み水分を與へて發生を容易ならしむることあり

收蠶の方法は先づ第一蠶箔の大いさなる紙の量目を改め置き其上に已に發生したる卵紙を伏せ暫くし

て卵紙の裏面より羽帚の柄を以て強く叩き蟻をして紙面に打ち墜すなり而して再び紙と共に量目を改め蟻量を知り其量に應じて席を擴げ又は桑葉を與ふるの基本とす已に掃き下したる蟻の上には春碎したる細かき粉糠若くは粟糠を一分位の厚さに撒布し又其上に細微に刻みたる桑葉を少許撒布し暫くして夫の糠と蟻とを羽帚にて徐々に寄せ集め最も靜かに丁寧に之を揉交ぜ而して蟻量一匁に付き凡そ尺坪二坪位に擴ぐるなり夫より三日目に至り除紙と稱へ收繭の時敷きたる紙を取り除くなり此時は席を二倍して四坪位に擴げ其五日目には又之を倍して八坪に擴げて第一齡を終るなり

第一齡給桑は初日は四匁乃至三匁第二日は四匁乃至五匁第三日は五匁乃至六匁第四日は六匁乃至九匁第五日は九匁乃至十五匁第六日は十五匁乃至十二匁第七日に至りては罷蜕するものありて給桑も亦隨て減ずるを以て十二匁乃至六匁づゝ初日は五回其後一晝夜凡そ八回づゝ合計四十五回桑葉は四百匁とす

第一齡剉桑の寸法は第一日第二日は一分四方第三第四日は一分五厘四方第五日は二分四方第六日第七日は一分五厘四方とす

溫度は攝氏寒暖計平均二十一度乃至二十二度を目的となし收繭より七日目位にして一齡を終ふ最も蠶の種類と氣候とにより多少の差異ありと雖も概ね之を以て標準となすなり各齡溫度皆同じ

第二齡の給桑は第一日即ち餉食當日は十二匁乃至十八匁第二日は十八匁乃至二十一匁第三日は二十一匁乃至三十匁第四日は三十二匁乃至四十匁第五日は四十匁乃至二十四匁第六日は二十匁乃至十二匁づゝ一晝夜凡そ七回づゝ合計三十三回桑葉八百匁とす

剉桑寸法は第一日二分四方第二日第三日は二分五厘四方第四日は三分第五、六日は二分五厘とす

箔の面積は第一日八坪第二日第三日十二坪第四日第五、六日は十八坪とす

第三齡給桑は第一日三十匁乃至四十二匁第二日四十二匁乃至六十匁第三日六十匁乃至七十二匁第四日七十二匁乃至百十五匁第五日百十五匁乃至百二十六匁第六日百二十匁乃至六十匁づゝ一晝夜六回合計三十二回桑葉二貫五百匁とす

剉桑寸法は第一日二日方三分第三日方四分第四日方五分第五、六日方四分とす

箔の面積は第一日十八坪第二日三日二十四坪第四、五、六日三十六坪とす

第四齡給桑は第一日百二十匁乃至百三十六匁第二日百四十匁乃至二百匁第三日二百匁乃至二百二十匁第四日二百三十匁乃至三百七十五匁第五日三百七十五匁乃至四百三十五匁第六日三百五十匁乃至百八十匁づゝ一晝夜六回合計二十三回桑葉八貫五百匁とす

剉桑寸法は第一日方六分第二日方八分第三、四兩日切放し第五、六日方八分とす

箔の面積は第一日三十六坪第二、三日四十八坪第四、五、六日七十二坪とす

第五齡給桑は第一日三百三十匁乃至四百五十匁第二日四百五十匁乃至七百匁第三日七百匁乃至九百七

十五匁第四日九百七十五匁乃至一貫百二十五匁第五日一貫二百匁乃至一貫三百六十匁第六日一貫四百匁乃至一貫八百匁第七日一貫八百匁乃至一貫三百匁第八日一貫二百匁乃至六百匁第九日四百匁乃至二百匁づゝ一晝夜五回合計四十回桑葉三十九貫五百匁とす

箔の面積は第一日七十二坪第二日より第九日まで終始九十坪とす

用桑は第一二三の三日間剉桑第四、五、六の三日間梢桑七、八、九の三日間剉桑とす

蠶已に五齡に達すれば非常の冷氣にあらざれば火力を用ひて溫度を加へざるを法とす何んとなれば此際は敢て火氣を用ひざるも天然の氣候既に蠶に適するのみならず五齡は則ち蠶の成長の極度にして最初蛹化したる蟻量に比すれば殆んど一萬倍にもなるもの故隨て新鮮の空氣を要する多ければなり

登族の方法は已に老熟したる蠶兒を一々拾撫し撰て用意し置きたる簇に上ぼすなり簇は養蠶に用ひたる竹籠或は藁の中へ島田と稱へ長さ三寸位づゝ六つ折になしたる折藁を擴げ大氣の流通等を考へ程能く鹽梅して此中に熟蠶を宿らしむるを法とす而して上簇中最も注意すべきは室内の乾燥溫度の均一光線の平等にありとす

今左に蟻量一匁に對する各齡給桑の量及び收繭の量を示し日本養蠶の狀況を明かにすべし

第一齡	給桑四百匁	第四齡	給桑八貫五百匁
第二齡	仝　八百匁	第五齡	仝　三拾九貫匁
第三齡	仝　二貫五百匁	合計	五拾一貫二百匁

良繭	二斗五升	惡繭	三合
同功繭	八升	合計	三斗三升三合

本邦養蠶法數種ありて或は室内の清涼を旨とするあり之を清涼育と稱す或は室内を溫暖ならしめ期日にして上簇結繭せしむるあり之を溫暖育と稱す又以上の二法を取捨折衷して一法を立つるものあり之を折衷育と云ふ各々其養法を異にせり然るに輓近人智の開發と共に大に其面目を更めたり殊に政府は明治の初年より蠶病の試驗に着手し尋で我農商務省は明治十七年より農務局に命じて中央蠶業試驗場を東京府下北豐島郡瀧の川村大字西ヶ原に設置せしめ諸般の研究を爲すと同時に各府縣より養蠶家の子弟を該試驗場に招集し養蠶法を敎授し又は蠶病其他試驗の成蹟を全國に頒布して當者業の模範となしゝより大に地方の舊慣を脫し西ヶ原蠶業試驗場の養法に則るもの年は一年に多きを加ふるに至れり然れども無慮七十萬の養蠶家中には今尙ほ舊時の陋習を固守するもの甚だ少なからずと雖も單に清涼を主として自然の氣候に一任するが如きもの殆んど滅絕に歸せんとするの現況なり

第六章

貯繭法

繭貯藏の方法は各地より購入せる生繭中より汚繭即ち死籠繭を撰び出し而して良繭のみを蒸籠に稀薄に撰し殺蛹室に設けある架に差し入れ蒸汽と火熱とを該室に充たし攝氏檢溫器七十五度乃至八十度の

熱によりて繭中の蛹を殺し蛾蛆の發生を防止す而る後之を蒸籠に稀薄に攤し貯繭室の架上に安置し其後三週間位は毎日一回爾後は隔日に之を攪拌して繭中にある蛹の居所を移轉せしめ其蛹に含有せる水分を發散せしむ而して大氣流通を能くし黴菌の發育繁殖を防遏せしむ尤も繭を攪拌して以上の手續をなすは殺蛹後四十日乃至五十日間とす而するときは蛹の水分も漸く散逸し去りて乾燥するものなり而して生繭量の三分の一に減ずるを度として厚き漉紙の嚢又は鍋力繊に收めて濕氣の侵さゞる室に貯ふるなり

第七章

撰繭法

撰繭の方法は殺蛹法を了りたる後先づ第一下等繭即ち同功、尿量、鑄焦、爛死、焦着、瘋着、汚染等を除き去りて後繰絲すべき良繭中に就き猶左の項目に從ひ之を撰別す

第一　色　金黄　卵黄　絲黄　雪白　銀白　淡白

第二　形　大形　中形　小形　正圓　楕圓　片尖　央緊　菱形

第三　繊維　緻密　密　粗　綿肌　天鵝絨

第四　緊緩　硬緊　稍緊　軟緊　頭軟　胴軟　片緊

而して之を一二三等に區別して繰製するものなり

第八章

繰絲法

繰絲の方法は夫の佛國の「シヤンポン」法即ち二條繰りの蒸汽器械を以てす先づ第一繰絲せんと欲する所の繭に就き繰絲の細大護謨質の多寡を試驗し煮湯及び繰り湯の温度を定め且つ繭の繊維により生絲一條に對する繭の顆數を示し繊度を定めて繰絲せしむ其標準左の如し

一繭絲の繊度四百七十六メートルに對し平均二「デニール」より三「デニール」のもの

繊度	初繭數	末繭數	備考
十/十	四	四	極めて細くなりたるとき更に一繭を添足す
十/十二	四	五	初は四繭にして末絲になりたるとき極細き末絲一繭を添ふ
十/十三	五		四繭なる所にて添足す
十/十四	五	五	極めて細くなりたるとき添足す
十/十五	五	六	初は五繭末絲になりたるとき六繭とす
十/十六	六	六	極めて細くなりたるとき添足す

一繭絲の繊度四百七十六メートルに對し平均三「デニール」平より四「デニール」のもの

十/九	三	三繊共に極めて細くなりたるときは添足す
十/十	三	三繊の中末絲になりたるものあれば直に添足す
十/十一	三	厚皮三繊に極末絲を加へ四繊を以て三半の割合とす
十/十二	三半	
十/十三	四	初三繊末絲にて四繊とす
十/十四	四	極めて細くなりたるとき添足す
十/十五	四	初は四繊末絲にて五繊とす
十/十六	五	四繊になりたるとき添足す
十/十七	五	

而して毎日數回繊度及び色澤類節等の檢査を施行せり供用水は跳れも河水なれども多少の含有物あるを以て骨炭木炭砂石等を籠めたる濾水器を用ひて有機物其他の含有物を除去して之が用途に充つ

出品の生絲は搜緒工女一名繰絲工女二名相連帶して業を取るの仕組にして先づ最初に小甕に繰り採り再び大甕に繰り返し而して繭となすなり又煮湯の温度は攝氏寒暖計七十九度乃至八十五度繰り湯の温度は五十六度乃至六十一度生絲一條には繭四顆乃至六顆を付し繊維の細大により添足し方を注意し繊度を均一ならしむ跳れも米國機繊に適すべき繊度即ち十三「デニール」を目途となし繰製せるものなり

今左に出品生絲五種に對する繊度及び强彈二力の檢査表を示すべし

繰名稱	繊度						强力						彈力					
赤熱	135	130	130	135	135	53	49	64	49	44	53	一回	138	125	140	130	130	一回
青熱	130	125	135	130	145	135	53	55	47	55	44	二回	140	125	132	143	105	二回
小石丸	130	130	135	130	130	135	49	66	55	53	44	三回	130	130	142	148	110	三回
鬼縮	125	140	135	140	135	140	57	58	57	52	53	四回	148	128	148	145	118	四回
清白	130	135	135	130	140	135	55	53	41	44	44	五回	120	138	120	115	118	五回
							44	66	45	42	60	六回	115	138	138	145	150	六回
							55	55	44	55	53	七回	145	130	130	135	117	七回
							49	57	46	55	55	八回	135	130	138	148	125	八回
							49	57	55	49	44	九回	140	130	135	115	110	九回
							53	62	49	55	51	十回	145	128	138	140	117	十回
平均	130	132	134	133	137	均	51	58	49	50	50	均	136	130	136	136	120	均

備考　表中の繊度は歩位に强力は瓦位に彈力は密邨に止む

第九章

出品繭生絲に關する要說

今回出品する所の繭絲は農商務省の管轄に屬する西ヶ原蠶業試驗場及び富岡製絲所の製造に係れり西ヶ原蠶業試驗場は桑、育蠶、製種等の改良を主とし富岡製絲所は生絲製造上の改良を專らとし二者相須て蠶絲業各部改良の模範を示すものとす故に生絲は蠶業試驗場の收繭を原料とし富岡製絲所に於て繰製せしめたるものなり出品の主意は此繭にして此生絲の成るを示し而して本邦生絲の標本たらしめ機織家の參考に資せんとするに在り

富岡製絲所は明治四年首長ポールブリユナ氏其他技師及び女教師數名を佛國より聘し繰絲其他一切の機械を同國より購入し建築其他都て制を佛國に取り政府の建設する所なり繰絲釜の數三百個使役男女の數四百七十五名一周年生絲三萬餘斤を製出す之が仕向先きは佛國里昂府及び米國紐育府の二市場なり伊佛二國の最上生絲と價格を爭ふものは獨り本所の生絲あるのみ冀くは此出品生絲に對し精密に審

査を加へ繰製の佳否及び需要上の得失等詳細に評論を下されん事を切望する所なり

第十章

結論

本邦生絲の仕向先は歐洲大陸英國及米國なり而して其最も需要の多きを米國とす今試みに明治十九年より同廿三年に至る五ヶ年間に於ける輸出高を國別に分類せば左の如し

國別＼年度	明治十九年	同廿年	同廿一年	同廿二年	同廿三年
英國	五一八俵	二、四一一俵	二、七七九俵	二〇四俵	六一八俵
佛國及大陸	一一、八二七	一六、二二五	一七、九八一	一四、八三二	一四、六七二
米國	一四、〇〇〇	二〇、九六〇	一九、九一六	二〇、三七〇	一八、三四〇
合計	二六、三九〇	三九、五九六	四〇、六七六	三五、四〇六	三三、六三〇

是に由りて之を觀るときは米國絹業の伸張發達と共に本邦生絲の需要は益々增進の勢を示せり又在紐育日本帝國領事の報告に據り明治廿四年中米國に輸入の生絲を輸出國に分類すれば左の如し

輸出元	數量	價額
歐洲より（歐洲絲）	五、七八一俵	四、八五九、二三二圓
歐洲より再輸出（亞細亞絲）	一三	六、五五二
香港より	六、八三〇	二、一〇七、九〇三
上海より	七、四六二	二、八七九、七五六
日本より	二七、五五二	一五、八五九、二三二
合計	四七、六三八	二四、八七五、七一七

前表に據りて觀れば本邦生絲は米國絹業市場に於て其全消費高の五割强に居ること一目瞭然たるべし而して其用途は重に上品製出の原料に供せらるゝとせば須らく本邦より供給する所の生絲を精良にし米國製絹業の發達進歩に伴はしめざるべからず實に米國は本邦生絲の一大華主なり故に將來本邦生絲生產者と米國需要者との間に於ける交誼をして益々親厚ならしめ米國機業の進歩と共に本邦生絲の發達伸暢せられん事を希望して止まざるなり

（完）

●寄書

◎露國の絹業

東京　農學士　田原休之丞

曩に余が譯する所の露國の蠶業てふ記事は大日本蠶絲會報第二十五號の雜報欄内に揭載されたり今又露國聖彼得堡府工業學校教授エヌ、ピー、ランゴウヲイ氏の編述に係る露國の絹業と題せるものを譯して貴誌に投ず

總論

露國の絹業は產額より謂ふときは他の工業に比して其發達甚だ不完全なり是れ他なし絹物は其外觀玲瓏美麗なるに由り各織物の最上に位し且つ其價格甚だ低からざるにより他の織物の如く常に用ふるを許さゞるの理に外ならず蓋し木綿、亞麻、及羊毛織物の過半は人生上必要品たるにも拘はらず絹物

は寧ろ贅澤品たるの性質ありて僅かに富者の使用に止まり其賣買區域甚だ狹隘なり

絹業の略史

絹物は古代より露國人の使用する所にして昔時にありては東洋製の絹物例之は錦襴緞子其他の如きは祭日の時之を用ひ又は大臣服若くは僧服に用ひたるも現今にありては絹物は殆んど西洋より輸入するに至れり

高價の絹物を輸入して之を使用するの區域漸次增加するの機勢あるや露國政府をして內地絹業の發達を謀るの緒に就かしむるの止むを得ざるに至らしめたり露國に於ける最初の製絹所は彼得帝の時に起り千七百十四年に於て既に緞子、天鵝絨其他各種の絹物を製すべき製絹所の設置を見るに至れり此等の製絹所に類する製造所は續々增加し遂に絹業は內地交易として「モスカウ」府「ウラヂミル」府及「ヤラスラウ」府の部內は發達するに至れり千八百九年には製絹所の總計は百九十四ヶ所に及び內百七十五ヶ所は實に「モスカウ」府部內に存す其總機數は四千九百九十六基にして九千五百人の職工を使用す其產出總額は左の如し

各種絹物	七、一一〇、〇〇〇 アルシン
絹紐	五〇五 段
小絲	四〇〇、〇〇〇 アルシン
手袋及足袋	六、四〇〇 對
	一二、六〇〇 對

千八百十二年の戰爭中「モスカウ」府に於ける製絹所の數は百五ヶ所に減じたりしも其交易は戰爭後發達甚だ捷く千八百十八年に於ては製絹所は合計二百十ヶ所に增加したり千八百廿二年商工務省はヂャツカード機の圖解及解說を出版頒布し其後該機を「モスカウ」府に陳列したるに由り翌二十三年該機を送入せしを第一とし千八百廿五年に於て非常に增加し千八百三十年には小製絹所に於ても之を使用するに至れり該機は里昂、伯林及維納に於けるものと等しかりしなり此の如き事情なりしを以て絹物の賣買は大に活氣を帶び絹物の產額及種類增加し其品質亦佳良となり爲めに千八百廿六年より仝廿九年に至る一期間の平均產額は殆んど絹物五百萬「アルシン」及十一萬五千段なりしなり千八百四十五年に於て各絹物の產出額六百萬「ルーブル」なりしも千八百五十年には六百五十萬「ルーブル」に增加せり露國絹業の將來の發達は輸入絹物と內地生產額との權衡に由りて之を推知するに庶幾らんか千八百五十五年より千八百七十九年に至る每五年期に於て歐洲境界より輸入せる絹物の一年平均量は左表の如し

年次	生絲	撚絲及絹續絲
千八百五十五年より千八百五十九年まで	一、六九〇	六、一〇六
千八百六十年より千八百六十四年まで	七四九	六、二五五
千八百六十五年より千八百六十九年まで	二、八九一	八、一四〇
千八百七十年より千八百七十四年まで	一、九二六	一四、九三四
千八百七十五年より千八百七十九年まで	一、五四一	一九、七〇〇

內地生產の增加に伴ふて粗製品の輸入は前記の如く增加せるも其增加は必ず外國產完成品の輸入減少

に伴はざりしなり即ち前表の同年期に於ける絹物及半絹物の歐洲境界より輸入せる一ヶ年間平均原價に就て之を見るべし

年	金額
千八百五十五年より千八百五十九年まで	六、一七二、〇〇〇ルーブル
千八百六十年より千八百六十四年まで	四、〇八七、〇〇〇
千八百六十五年より千八百六十九年まで	四、八六九、〇〇〇
千八百七十年より千八百七十四年まで	五、九二〇、〇〇〇
千八百七十五年より千八百七十九年まで	四、二四四、〇〇〇

是に由りて之を觀れば内地の生産は大に發達したるも絹物の需用亦大に增加して内地の生産のみにては之を充すこと能はざりしを知るに足らん

露國絹業の發達に關する狀況の略説は前述するが如くにして多少了解したるものと信ずるが故に今正に量近十五年間の狀況を述べん

絹物の輸出入

露國は滿の產額上に於ては歐洲諸國に劣らざるも之を製絲して撚絲となすの方法に至りては其發達甚だ遲緩なり最近の稅法改正に由り露國は内地產のものよりも外國即ち未闌、チュリン、支那、中央亞細亞即ち「マルグルラン」、「コックハンド」及「カスガル」、「サルカス」及波斯絲を用ふるに至れり之を要するに露國產絲は其清純及齊整の點に於て外國のものに比して劣等たるを免かれず加ふるに露國絲は五十「デニール」以下のものを製すること能はず然るに製絹に用ふる絲の大半は二十二乃至廿八「デニール」の經緯絲にあらざれば不可なり其纖維の大小は一「テトロ」に對する重量を以て示すを常とし一「テトロ」は佛國古式にありては四百七十六「メートル」にして一「デニール」は〇、五三一三「グラム」なりとす露國製絲の現況此の如くなるにより露國に於て外國產のものを購入するは勢ひ止を得ざるものと謂はざるべからず

左表は歐洲境界より露國に輸入せる外國產の量を示すものなり

年	次	生絲及眞綿	經絲緯絲、縫絲及梳絲
千八百七十七年		一九七	一〇、〇〇〇
千八百七十八年		二、七八六	二四、六〇四
千八百七十九年		三、六六六	三〇、五五八
千八百八十年		六、三八五	二四、三二七
千八百八十一年		三、三七四	二一、九五一
平均		六六三	二二、二九四
千八百八十二年		一、二二一	二二、九八八
千八百八十三年		一、〇七三	二四、〇七一
千八百八十四年		二、五二六	二二、七八八
千八百八十五年		三、〇二七	二〇、九五六
千八百八十六年		一、七〇二	二一、八一六
平均		四、七〇八	二二、五二四
千八百八十七年		二、二一六	二三、〇〇一
千八百八十八年		二、四八八	二六、九八一
千八百八十九年		二、一八二	二六、九〇八
千八百九十年			二三、六三九

千八百九十一年平均								二〇、四〇〇		二四、五〇〇	
								一二、七九九		二五、〇一六	

最近五ヶ年間の平均金額に由り千八百八十七年の總價額を見れば百七十八萬二千八百三十七「ルーブル」にして之に東洋境界輸入の金額を合すれば總輸入金額は二百十三萬千「ルーブル」に達す然るに千八百八十八年には大に增加して七百六十四萬四千五百二十五「ルーブル」となれり且前表に據れば經絲、綿絲、縫絲等は大に輸入の增加を示す

絹物は粗生品に比すれば輸入の狀況幾分か緩慢なりとす左表は歐洲境界より輸入せる絹物の量を示すものなり

年次	絹及半絹物		編物及裝絹		合計	
	千ポード位	千ルーブル位	千ポード位	千ルーブル位	千ポード位	千ルーブル位
千八百七十七年	二、五	一、四六五	〇、七	一、六二	三、二	二、六二七
千八百七十八年	四、四	二、五二八	一、五	三八一	五、九	二、九〇九
千八百七十九年	四、五	二、五九五	一、八	四五三	六、三	三、〇一八
千八百八十年	四、八	二、七九七	二、七	六四九	七、五	三、四四六
千八百八十一年	三、一	一、七五六	二、三	四八三	五、四	二、二三九
第一期平均					五、七	二、六五四
千八百八十二年	三、二	一、八〇八	一、八	三七九	五、〇	二、一八七
千八百八十三年	三、三	一、八五七	一、七	三三七	五、〇	二、一九四
千八百八十四年	三、四	一、九三三	一、六	三〇一	五、〇	二、二三四
千八百八十五年	三、四	一、七三三	一、二	二二二	四、六	一、九五五
千八百八十六年	二、九	一、三五三	一、二	二三六	四、一	一、五八九
第二期平均					四、七	二、〇三二

前記の外絹製の蠅着物及油引物並に印刷せる「ファラード」を輸入するも其額未だ少量たり前表第二期は第一期に比し一割八分の減少を示し第三期は第二期よりも二割の減少を來せり

露國は主として繭、生絲及屑物を輸出す左表は即ち歐洲境界を通じて輸出せる最近の統計を示す

年次	繭	屑物	生絲	計	絹物
	ポード	ポード	ポード	ポード	ポード
千八百八十七年	二、五	〇、九	一、九三	三、四	一、三六七
千八百八十八年	二、二	一、〇	二三一	三、二	一、三四四
千八百八十九年	三、一	一、三	二九四	四、四	一、八二一
千八百九十年	三、二	一、五	三二〇	四、七	一、七三九
千八百九十一年	二、五	一、〇	二三四	三、五	一、三六八
第三期平均				三、八	一、五二八
千八百八十七年	二、五	一、一七四	一、九三	三、四	一、三六七
千八百八十八年	二、二	一、一一三	二三一	三、二	一、三四四
千八百八十九年	三、一	一、五二七	一、三	四、四	一、八二一
千八百九十年	三、二	一、四一九	一、五	三二〇	四、七	一、七三九
千八百九十一年	二、五	一、一三四	一、〇	二三四	三、五	一、三六八
第三期平均					三、八	一、五二八
自千八百六十九年至千八百七十七年平均		一、〇二六		三六、四六六		四七
自千八百七十八年至千八百八十七年平均			一、二八九	一五、五〇五		
千八百八十八年		四、一一三				
千八百八十九年		一、四〇一	九六八	二三六九		一三
千八百八十九年		七、一一三	七八七	七、九〇〇		一四
千八百九十年	二八五	七、四四三	三、二八四	一〇、七五六		一
前三ヶ年平均	九五	五、三一九	一、六七九	七、〇〇八		六

前表合計中繭は其重量の一割を減じ以て生絲の重量に換算したり次表に於ても亦然り露國より輸出する生絲等は歐洲境界よりするものゝ外亞細亞即ち「トランスカウカシア」境界より輸出するもの多しと

す即ち左表の如し

年次	蘭	屑物	生絲	合計
自千八百七十八年至千八百八十七年平均	二、一一八四	六、四九四	三、八六八	一二、四八〇
千八百八十八年	六、〇六〇	七、〇三八	一、〇二〇	八、六六四
千八百八十九年	七、七一二	一六、二九一	三、九八〇	二一、〇四二
千八百九十年	七、九五二	一二、九四八	三、四七四	一七、二一七
前三ヶ年平均	七、二四一	一二、〇九二	二、八二五	一五、六四一

最近三ヶ年に於ける輸出の平均價額は歐洲境界より五十萬「ルーブル」にして亞細亞境界より百五十五萬「ルーブル」なり全年間に於ける絹物の輸出は一年平均殆んど千四百「ポード」にして其價額は五十五萬四千「ルーブル」なり故に平均の合計は一年殆んど二百六十萬「ルーブル」に上るなり

輸入總額千百三十萬「ルーブル」を輸出總額に比するときは輸入の超過すること實に四倍三三なりとす然れども外國絹物は主もに粗生品若くは半成品の形體即ち撚絲として輸出するを忘るべからず蓋し絹物の輸入は内地生産價額の七八分以上に上ることなかるべきを以て甚だ少額なりとす露國絹物は學術上及技術上最も完全の度に達せる里昂の絹物と非常の競爭をなし假令露國輸入の絹物に對して重稅を課するも佛國絹物の輸入は到底免かれざるべし

左表は絹物（絹紐を含む）産出額を示せるものにして帝國商工務省の編纂に係るものなり

年次	金額
千八百八十年	九、一二九、〇〇〇ルーブル
千八百八十一年	一〇、五二六、〇〇〇
千八百八十二年	一一、三八九、〇〇〇
千八百八十三年	一〇、五〇九、〇〇〇
千八百八十四年	一〇、〇六七、〇〇〇
千八百八十五年	一〇、一九三、〇〇〇
千八百八十六年	一二、四五一、〇〇〇
千八百八十七年	一二、一〇七、〇〇〇
千八百八十八年	一三、六三七、〇〇〇
千八百八十九年	一三、九一一、〇〇〇

千八百八十九年に於ては錦襴及圖條の産額は二百六萬「ルーブル」なるが故に前表に之を加ふべし

前表は僅かに大製絹所の産出額を示したるものなるに由り正確なりと謂ふべからず之に小製絹所の産出額を合すれば尚ほ大量を表すべし小製絹所は多くは「モスカウ」部内「ウラヂミル」部内及「ウイスチユラ」近傍に在り其産出額は正確の統計に據れば一年殆んど五百萬乃至七百萬「ルーブル」を産するにより總計は實に二億萬「ルーブル」に達す

絹業の商業的狀体は以下の表に示せるが如し今や原料及其絹物となすの費用を述べん

「モスカウ」府一「ポード」の賣買相場　但「ルーブル」を以て示す

年次	ミラン絹		ボクハラ産	メヒンスク産	コックハンド産
	經糸	緯糸	絹		
千八百七十八年	五二五乃至五七五	四六〇乃至四八五	二〇五乃至二一五	二〇〇乃至二一〇	—
千八百七十九年	五一〇乃至五六〇	—	二一〇乃至二一五	二〇〇乃至二一〇	—
千八百八十年	四七〇乃至五三〇	四〇〇乃至四二五	二一八乃至二二〇	一八〇乃至一九〇	一八〇乃至一九〇
千八百八十一年	四六〇乃至五二五	四二〇乃至四五〇	二一〇乃至二二〇	一八五乃至一九五	一六〇乃至一六五
千八百八十二年	四七〇乃至五四〇	四四〇乃至四六〇	一九〇乃至一九五	一七〇乃至一八〇	一三〇乃至一七五
千八百八十三年	四二〇乃至四八五	三九〇乃至四五〇	二〇〇乃至二一八	一七五乃至一八〇	一〇〇乃至一九〇
千八百八十四年	四三〇乃至五一〇	三八〇乃至四三〇	二〇〇乃至二二〇	一六〇乃至一八五	一〇〇乃至一八〇
千八百八十五年	三九〇乃至四三〇	三四〇乃至四一〇	一七〇	一四〇乃至一六〇	一九〇乃至二〇五
千八百八十六年	四五〇乃至四八〇	四二〇乃至四五〇	一七〇乃至一八五	一六五乃至一九〇	二二五乃至二八〇
千八百八十七年	四五〇乃至五二〇	四二五乃至四七五	二二五乃至二五〇	二〇〇乃至二一五	二二〇乃至二五〇
千八百八十八年	四四〇乃至四九〇	四三〇乃至四七〇	二四〇乃至二四五	二一〇乃至二一五	二四〇乃至二五五
千八百八十九年	三七〇乃至四三〇	三七〇乃至三九〇	一七〇乃至一七五	一五〇乃至一六五	一八五乃至一九五
千八百九十年	三七〇乃至四四〇	三七〇乃至三九〇	一六〇乃至一七五	一五五乃至一七〇	一八〇乃至一九五
千八百九十一年	三二五乃至三七五	二九〇乃至三四〇	一五〇乃至一七〇	—	—

前表は露國に於ける絹絲の賣買相場にして之を里昂絹業に關し公立生絲檢査所長ヂエー、テスラノー氏の調製せる絹絲の賣買相場に比較するは最も有益のことゝ信ず左表は里昂に於ける絹絲一「ポード」の賣買相場（「ルーブル」）を示す

年次	經絲		緯絲		絹絲
	佛國一等絲（三乃至六デニール）	義門一等絲（三乃至六デニール）	伊國一等絲（三乃至六デニール）	伊國二等絲（三乃至六デニール）	支那一等及二等絲（四乃至六デニール）
千八百七十八年	四六八乃至四八〇	四四四乃至四五〇	三九六乃至四〇二	三七二乃至三八四	三三〇乃至三三六
千八百七十九年	四八〇乃至五一〇	四五六乃至四八〇	四三二乃至四四四	三二〇乃至三三二	三二四乃至三三六
千八百八十年	四一四乃至四二〇	四〇八乃至四二〇	三七二乃至三八四	三六〇乃至三七二	三六〇乃至三一八
千八百八十一年	四六八乃至四八〇	四四四乃至四五六	三六〇乃至四〇二	三九六乃至四〇二	三五四乃至三六六
千八百八十二年	四一四乃至四二六	四一四乃至四二六	三九〇乃至三九六	三七二乃至三八四	三三六乃至三四二
千八百八十三年	三九〇乃至三九六	三四八乃至三九六	三四八乃至三六〇	三四二乃至三五四	三三六乃至三四八
千八百八十四年	三七八乃至三四	三七二乃至三八四	三三六乃至三四八	三三〇乃至三四二	二一七〇乃至二八二
千八百八十五年	三八四乃至三九〇	三八四乃至三九〇	三五〇乃至三六〇	三四八乃至三六〇	二一七六乃至三〇〇
千八百八十六年	三九六乃至四〇二	三九六乃至四〇二	三七二乃至三七八	三六六乃至三七二	三一二乃至三二四
千八百八十七年	三六〇乃至三七二	三六〇乃至三六六	三四二乃至三五四	三三六乃至三四八	二八二乃至三〇〇
千八百八十八年	三七〇乃至三六二	三七二乃至三八四	三四二乃至三五四	三三六乃至三四八	二九四乃至三一二

「モスカウ」及里昂に於ける伊國絲の價格を比較するに佛國絹業者は露國よりも遙かに低價を以て必要なる原料を買收するを得ること明なり

露國絹物の品質を見るに露國は其價格低廉なるものは勿論其高昂なるもの及佛國產に劣らざる各種の全絹物及半絹物を產するに至れり小製絹所は概して品質中位若くは下位のものにして其價格低廉なるものを製するを常とす之を要するに露國に於ける絹物の產出高は吾人の豫期する如くに增加せざりしことを推知すべし思ふに露國は外國產原料の高價なるものを使用せざるべからざるの必要ありたるにより絹業の發達は幾分か妨碍せられたるに由らん歟

露國政府は現今撚絲に課稅し且つ養蠶奬勵學問に基ける製絲法改良及撚絲法の改善に關する方針を取り他の工業に於けると等しく其各分科に於て獨立の位地を占むるの度に進ましめんことを希望せり露

國絹物の產額は現今にありては不充分たるを免かれざるも其品質に於ては何れの點よりするも之を批難する能はず何となれば露國の絹物は其品質里昂のものと殆んど等しくして充分露國市場に競爭し得べく且つ錦襴の製織は到底他國の及ばざる所なればなり露國錦襴の製織は實に其意匠の高尙なるの點あるにより外國博覽會に於て外人の注意を惹きたること大なりしなり

●統計

◎生絲及屑物の集散

本年六月以降去月(九月)三十日に至る四ヶ月横濱に於ける生絲及屑物の集散は左の如し

生絲四ヶ月間出入調査

	六月	七月	八月	九月	總計
繰越高	九、七八五俵	九、三八〇俵	一三、八九〇俵	一四、八七九俵	
入荷高	三、七七七	一二、一九七	一六、四七九	一六、九七四	四九、四二八
小計	一三、五六二	二一、五七八	三〇、三六九	三一、八五四	
賣込高	一二、二五八	五、六八九	一三、六三三	六、一二八	二七、七〇九
積戻高	一、〇〇〇	八七三	五〇六	八二二	三、二〇一
直輸高	九二三	一、一二四	一、三五一	一、五四〇	四、九三九
小計	四、一八一	七、六八七	一五、四九〇	八、四九〇	

差引市中在荷　九、三八〇　一三、八九〇　一四、八七九　二三、三六三

屑物四ヶ月間出入調査

	六月	七月	八月	九月	總計
繰越高	二〇、一〇一俵	一八、六五〇	二〇、六二六	二七、二六四	
入荷高	六三四	四、五七七	九、二二六	一二、二五四	二六、六九一
小計	二〇、七三五	二三、二二七	二九、八五二	三九、五一八	
賣込高	二、〇三四	二、五〇八	二、五七五	一〇、一〇九	一七、二二六
積戻高	五〇	九三	一三	七一	二二七
小計	二、〇八四	二、六〇一	二、五八八	一〇、一八〇	
差引市中在荷	一八、六五〇	二〇、六二六	二七、二六四	二九、三三八	

◎八月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計

種目	數量	元價	收稅
生絲	七九四、八八九斤	五、三九八、五七九・三四〇	一九一、三一三・六一二
熨斗絲	五五、六七一	六四、四六〇・〇〇〇	一、三四二・五五五
屑絲	五九、八四七	四八、九四八・〇三〇	四三二・九八〇
空繭	一	三・〇〇〇	・〇三五
屑繭	一五、〇四二	一、九九七・七五〇	一〇八・八二四
眞綿	二	五・七〇〇	・一五八

屑眞綿	四、九五〇	三二七・七〇〇	一六・三八五
蠶卵紙	六枚	一五・〇〇〇	・一四五
合計	九三〇、四〇二片 六枚	五、五一四、三三六・五二〇	一九三、一一四・六九四

◎八月中絹布類輸出數量及元價統計

種目	數量	元價
縮緬	四七五反	一〇、三四三・五〇〇円
羽二重	二四、八九九	四三一、六〇九・一九〇
他の諸絹布類	五、五七〇	二三、二二二・八一〇
絹綿布類	一、〇一六	四、三八二・九八〇
絹布手巾	一五〇、四六六打	四〇七、九八四・三九〇
絹製品類	—	五四、〇四一・二九〇
合計	三一、九六〇反 一五〇、四六六打	九三一、五八四・一六〇

◎九月中橫濱生絲手合高同最高價格及外國爲替相場表

日	種目	手合高	手合最高價格	外國爲替相場
		製絲場名	價格	倫敦參着	里昂參着	紐育參着
一日	八十六個半	三州二川器械(細)	七百四十五弗	二志一片八分ノ三	二法七十七參	五十三弗二十五仙
二日	休					
三日	百四十七個	丹波取合器械(細)	七百十弗	二志二片八分ノ三	二法七十七參	五十三弗二十五仙
四日	百十九個	紀州進榮社器械(細)	七百三十弗	二志二片四分ノ一	二法七十五參	五十三弗
五日	百七十六個	信州小野社器械(中細)	七百四十二弗半	仝	仝	仝
六日	三百四十三個	甲州擴盛社器械(中細)	七百四十弗	仝	仝	仝
七日	百九十八個	崎州靜岡器械(細)	七百五十弗	二志二片	二法七十二參	五十二弗五十仙
八日	三百〇二個	信州綠進社器械(中細)	七百四十弗	仝	仝	仝
九日	二十六個	尾州金榮社器械(細)	七百四十五弗			
十日	三百十六個半	信州伊奈社器械(中細)	七百五十五弗	二志二片八分ノ一	二法七十三參	五十二弗七十五仙
十一日	六百八十九個	丹波共同器械(細)	七百四十五弗	仝	仝	仝
十二日	六百九十一個	相州甘利器械(細)	七百四十弗	仝	仝	仝
十三日	三百三十一個	尾州共盛社器械(細)	七百四十五弗	仝	仝	仝
十四日	五百五十五個	尾州自帝社器械(細)	七百四十五弗	仝	仝	仝
十五日	五百二十個半	尾州自帝社器械(細)	七百四十五弗	二志二片	二法七十二參	五十二弗五十仙
十六日	休					
十七日	四百五十二個	伯州三島器械(細)	七百五十五弗	二志二片八分ノ一	二法七十三參	五十二弗七十五仙
十八日	二百六十二個	上州下仁田器械(細)	七百五十弗	仝	仝	仝
十九日	三百七十五個半	伯州蓼木器械(細)	七百六十五弗	二志二片	二法七十二參	五十二弗五十仙
二十日	三百五十三個半	信州宮澤製絲器械(大)	七百六十弗	同	仝	仝

廿一日	四百七十二個	飛州森佐器械（細）	七百九十弗	二悉二片八分ノ一	三法七十三巻五十二弗七十五仙
廿二日	五百八十二個	周防義濟堂器械（中細）	七百六十弗	二悉二片	二法七十二巻五十二弗五十仙
廿三日	休				
廿四日	四百八十六個	信州天龍社器械（大）	七百五十五弗	二悉二片八分ノ一	二法七十三巻五十二弗七十五仙
廿五日	八百七十六個半	信州本六工社器械（大）	七百六十弗	仝	仝
廿六日	七百六十二個半	信州本六工社器械（大）	七百七十弗	二悉二片	二法七十二巻五十二弗五十仙
廿七日	六百十七個半	駿州静岡器械（細）	七百七十弗	仝	仝
廿八日	四百八十個半	信州鷲頭社器械（大）	七百三十二弗半	仝	仝
廿九日	二百五十九個	若州小濱器械（細）	七百七十弗	仝	仝
三十日	休				

（備考）八月下旬より本月初旬に渉り市況至りて静肅にて捗々敷取引なく打過ぎしが六日に至り稍景氣附き爾來多少の取引ありたれども差したる異狀なくして一ヶ月を經過せり

●問答

◎膿蠶の原因研究に就て問ふ

岩手縣　信夫源四郎

(一)膿蠶の經歴及徴候は佐々木理學博士の研究成績に由りて了知するを得たり然るに空氣の缺乏或は呼吸作用の不完全なるは生理上如何なる變化を來すものなるや

(二)膿蠶の躰軀に滿つる多角形躰は寄生物にもあらず蠶躰中の或る組織の變化にもあらざるものとせば化學的の作用如何なる點より産出したるものなるや

(三)膿蠶が漏す所の白膿液は顯微鏡下に照せば脂肪球游離すると説けるものあり今回研究の多角形躰と同物異名なるや脂肪球なれば有機質なるが如く多角形なれば無機質の結晶躰なるが如く思はる右物質は如何なるものか

答

東京　理學博士　佐々木忠次郎

(一)蠶躰の呼吸作用を不完全ならしむれば其空氣管の被膜を構成する細胞其他諸器を成せる細胞中に多角形躰を産生す但し健蠶兒に在りては其空氣管の被膜を成せる細胞中には多角形躰を存することなし

(二)多角形躰は寄生物にあらず即ち蠶躰の組織を構成する細胞内容より化生するものなり

(三)膿蠶の原因たる多角形躰は脂肪球とは全く異なりたるものなり白膿液中に脂肪球游離すと云ふは誤謬なり多角形躰は眞の結晶躰にはあらず結晶躰類似のものにして元形質の變化なるものゝ如し

◎蠶兒及原種に就て問ふ

愛知縣　山口喜三郎

(一)蟻の發生したる翌日之を見れば大小不同なるもの當地に數多あり其原因は蠶種の不眞なる爲めか或は養方に由るものなるか又之を一齊にして養ふことを得べきや否や

(二)初眠より斃蠶等生ずるは如何なる原因なるや

(三)初眠より縮蠶等生ずるは如何なる原因なるや又之を治することを得べきや否や又傳染するものなるや否や

(四)夏蠶秋蠶等炎熱甚しきとき例へば華氏九十度以上に至るときは假令一飯中と雖も桑葉に水を吹きかけ給桑するも害なきや否や

(五)蠶兒蛻蛻桑付するとき桑葉を與ふれば催眠即ち振桑のときは軟桑を與ふるに及ばざるか

(六)三化蠶は初め何より種を製せしや

(七)新種は何を以て親種となすや

(八)夏蠶秋蠶等の膿蠶を生ずる原因如何幷に其治療法あらば教示ならんことを乞ふ

東京　芝山直清

答

(一)蠶兒の發育不齊なるは蠶種ノ不良と飼育の如何に因ると雖も問者の所謂原因は果して蠶種にあるか將た飼育にあるかは質問書簡短にして明かならず兎に角斯る蠶兒を一齊にして飼育するときは收支相償はざること多し故に此の如き蠶兒は放棄し更に良種を求めて飼育するを得策とす

(二)初眠より斃蠶の生ずるは蠶兒の羸弱なると飼育法の宜しきを得さるに因るものゝ如し

(三)縮蠶の生ずる原因一ならずと雖も微粒子毒の寄生に罹りしもの若くは蛻皮中乾燥に失したるより生ずるもの多きが如し既に發生したる後は之を治するの方法なし故に健全無毒の蠶種を撰擇し勉めて飼育に注意するを肝要とす

(四)夏秋蠶飼育中炎熱甚しきとき桑葉の乾燥を恐れて之に水を吹き蠶兒に與るときは却て醗酵を生じ爲めに害を爲すものなり

(五)蛻蛻及催眠の際は成るべく柔にして通常より小形に切りたる桑葉を與ふるを良しとす

(六)三化蠶即ち秋蠶の初めは春夏蠶種を寒冷なる地に貯へ置きて其發生を遲延せしめたるものなり

(七)新種とは新しき種類の意ならん果して然らば在來の種類より撰出したるものを以て親種と爲すにあり

(八)膿蠶の原因は本會報第二十七號雜報欄内に佐々木博士の研究されし成蹟あり就て熟讀あるべし

福島縣　佐藤清作

◎桑樹及蠶病消毒法質問

(一)桑樹落葉後十月下旬頃の耕耘(終期)は畝を潰して桑樹の根へ土を寄せ或は根際を深さ七八寸に堀上げるものあり何れか宜しきや

(二)蠶蔟を桑樹の肥料に施すときは翌年の蠶兒に幾分か影響するとの説あり果して然るや

(三)前項影響するとせば石灰僅少(消毒の爲め)を混和し施しては如何

(四)病毒の蠶兒を飼育したる蠶室及び蠶具を普通掃除して翌年使用して害あるや果してありとせば簡易消毒法如何

答(一)(二)(三)(四)

東京　農學士　大林雄也

仝　芝山直清

(一)桑樹は成るべく十月下旬より根際を掘ること七八寸以上一尺許りにして晩冬まで空氣に曝すを宜しとす然れども春に於ては早く右の掘上げたる土を根際に寄するを肝要とす

(二)蠶糞を堆積肥料と爲して桑樹に施すときは翌年の蠶見に影響を及ぼすことなし
(三)前項の如くなれば別に消毒法を施すを要せず
(四)病毒ある蠶見を飼育したる蠶室及蠶具は養蠶後及飼育前に於て流水等にて十分洗除し乾燥せし後使用するを簡易の消毒法となす

●外報

◎二十六年中日桑間の貿易

左に掲ぐるものは二十六年即ち西暦千八百九十三年に於ける米國桑港に輸入せし要品の商況にして過去の事に屬すと雖も製絲業者の當に記憶し置くべき米國製絹原絲の供給を清國に仰ぐことの多かりしを證するに足るを以て在桑港領事館報告書中より之を抜抄して當業者の參考に供す

第三輸入要品價額對照並商況　九十三年間桑港に輸入せし我重要商貨の價額及過去四年間の對照左の如し此對照額は單に桑港消費額に止り東部輸送額を包含せざるものとす

		九十年	九十一年	九十二年	九十三年
生絲	價(弗)	六、六五八、六〇六	一一、七一七、六五五	一一、七四二、五一八	五、六三四、六八〇
	量(斤)			三、一七、六一三	一、六一七、〇五三
絹織物	價(弗)	二六二、六五五	二四三、六一三	二九三、二九〇	四二〇、一四八
	量(疋)	五七二、九七〇	七五二、二五九		五四〇、八一二
茶	價(弗)			六〇八、二二九	四、二〇九、八三五
	量(斤)				三、七二一、五六六
醋	價(弗)	二四、五七〇	一四三、二〇二	九五、三九六	一二六、二九六
硫黃	價(弗)	一〇二、六五四	一二三、八二九	一〇五、七二五	一〇五、七七二
米及米粉	價(弗)	二八、一五六	一九六、九一六	一〇二、五九一	六〇、六七八
石炭	價(弗)	四三、七四六	七二、五六八	六、九八六	一七、一七五
	量(噸)			三、七三一	七、七五三
陶器	價(弗)	二〇、六四八	二九、二五〇	二七、八八八	二五、〇八〇
紙	價(弗)	一四、一五九	一三、〇九三	一五、四五九	一八、一一六
木	價(弗)	九三一六	—	一八、三三七	一七、六八六

生絲　日米兩國貿易の大宗たる生絲は千八百九十三年に於て一大蹉跌を來したり同年の輸入價額は九十年に比し百二萬弗、九十一年に比し六百八萬弗、九十二年に比し六百十萬弗を減じ即ち過去四年間最低の地位に坐し又其數量は九十二年に比し百五十萬斤を減ぜり前項に記するが如く右價額は單に桑港消費額の消長を表したるものなりと雖も獨り本品に至りては稍々他の商貨と事情を異にするものあり即ち桑港消費額の下に在る他の商貨は概してミッスーリー河以西の地に消費せらるゝも本品は荷受主の桑港に在るに拘らず其全額を擧げて東部製絹地方に轉輸せらるゝものなり事情右の如きを以て輸入生絲額の消長は一に東部製絹地方の狀況に支配せらるゝより其消長を來せし各般の事由は本報告の負擔に歸するを得ざるものありと雖も全體の商況に關し茲に少しく開陳する所あらん抑々千八百九十二年貿易報告に揭げし如く同年に於て生絲の輸入額が未曾有の盛況を呈せしは伊佛兩國收繭の減少合衆國絹業恢復の事情に基きしものにして九十三年に入り一二の兩月は引續き其盛況を維持し輸入額も前年同期間に比し殆ど五十萬弗の增加を示せしが開年

前後より我生絲の市價騰貴の傾ありしと又三月頃に至り合衆國商工業不振の端を發すると同時に製絹業は直接影響を受け且つ關稅改革の擧既に眼前に迫りて製絹業の收縮を助けたるを以て同月より十月に至る八箇月間は我絲況常に不振の色を呈せり試に一例を擧ぐれば當時シカゴ博覽會の開設ありて東部の景氣を添へたりしに拘らず七月中に於て輸入せし我生絲の價額は僅に三萬七千弗に過ぎず六七月頃は例年輸入額最微の月次なりと雖も其跌落して五萬弗以内に陷りたるは市況の如何を推測するに於て餘あるべし歲末に至り一般の不景氣少しく緩和の兆を呈し輸入額も亦少しく增加を示せしが市況は依然不味の委を失ふに至らずして此年を經過せり然るに此年に於て清絲輸入額の減退は我產絲に比し割合に多からざりしは察するに開年前後より我產絲の市價稍〻騰貴せしため合衆國の絹業者は已むを得ず原絲の供給を清國に仰きし事情に基きしならん過去二年間輸入清絲の額數を對照すれば左の如し

	數量	價額		數量	價額
一八九三年	七五四一八三	二二一〇四一三七二	一八九二年	一三二一七一五六五	三一五二二八九八

試に數字を以て千八百九十二年間日清兩絲輸入額を百と定め同九十三年輸入額減退の度を表出せば我產絲は凡そ五十二を減じ清產は凡そ三十七を減じたる割合なり之を反言すれば前者が未だ百に達せざる以前に後者は早く既に百を超へて前進する趨勢を有するものなり是れ我製絲家に取り大に注意を要する現象なり此趨勢は果して永續すべきか我產品將來の進步は果して清產に及ぶ能はざるか此等の問題は製絹地方の實況に徵し織造の結果を調査するにあらざれば充分の判斷を下す能はざるは固より論を俟たずと雖も單に九十三年兩產輸入額退減の度に徵して我產絲の前途を慮るは稍〻杞憂に屬するの嫌あり何となれば此年に於て國內の購買力は大に收縮し我產品の價額は稍〻騰貴せり騰貴の原料を使用せし織物を以て購買力收縮の市場に供給するは決して策の得たるものにあらざるは實業者の看破する所なりと雖も之がため其事業を停止するは復た實業者の肯ぜざる所なり是に於て彼等は嘗く品位及性質の如何を問はず單に低廉なる原料を得て低廉なる織物を製し以て一時不景氣の市場に供給せんため清絲を需要せしものなれば清國輸入額減退の度百分の三十七に止りし唯一の原因なるべきを以て我產絲價格の騰貴にして永續せざる以上は他日合衆國の經濟界起色を形すと共に我產絲は進て常勢を保つに至るべし然れども商貨販路の消長は常に意外の邊より來るものあり若し清國輸入者にして右の機會を利して販路を擴張するの策を運し更に一步を進め產絲を改良し國內の需要を長進するの法を講ずるときは輸入清絲は漸く勢力を得て將來怖るべき强敵たるに至るべし故に我產絲家は今後清絲の商勢及東部製絹地方の事情を注視して製々警戒を加ふるを忘るなかるべし

絹織物　千八百九十三年輸入額は前三年に比し十二萬弗乃至十七萬弗を增加せり本品の重なるものは羽二重織段物及手巾にして就中段物最も多數を占む此年に於て國內を擧げ不景氣に陷りしに拘らず獨り本品に於て著しき增加を現したるは銀價下落の結果與りて力ありと謂ふと雖も要するに我羽二重織物が特別の長所を有するに基くものなり特別の長所とは他にあらず我羽二重は柔軟利滑の特性を保つに由るものにして歐米の製絹業者は幾度か摸製を試みたるも虎を畫きて猫に類

し眞相を得る能はず結局我水質の然らしむる所なるへしと斷定するに至れり事情此の如きを以て羽二重の一品は我國産の專占に歸し需要日々長進し輸入額年々增加するの勢あり目下我羽二重段物の用途に向ひて競爭するものは淸産繭紬（淸産織物輸入額は九十三年間二十一萬三千六十四弗、九十二年間二十二萬九千四百三十一弗なり）にして該品は數年前までは太平洋沿岸に於て需要頗る多く殆ど市場を壟斷せし有樣なりしが羽二重の販路開けしより其競爭に遇ひ大に商勢を頹せりと雖も根柢頗る固くして容易に拔け去らざるのみならず時々嗜好の小變化ある毎に羽二重の市況を擊することあるを以て我製絹に取りては由々敷一大敵なりと云はざるを得ず故に我製絹の販路を擴開し聲價を增進せんとする者は其缺點を改良して競爭場裡に勝を制するの方略を講求せざるべからざるなり頃者桑港絹業者に就き實地に調査せし結果に據れば我羽二重織物の改良を要すべき點頗る多きが如し左に其要領を揭ぐ

一織方の不完全　織造に使用する地絲或は太く或は細く織緯一樣ならざるがため段物の表面凹凸參差の狀を呈するものあり又齊一の地絲を使用せし段物に至りても投梭の際力を用ふる或は强に失し或は弱に過ぐることあるより展て之を覽れば時に一抹の痕跡地面に露出して著しく美觀を害し時に地合の一部分は緊縮し他の一部分は疎鬆して外觀大に宜しきを失ふものあり右は織方に關する最も不完全なる點にして就中投梭の力均一を失するもの殊に多く段物（手巾にも此缺點あり）十中の五六は多少の刋あるも概して其痕跡を認めざるなきを以て我絹業者は速に改良の法を講ぜざるべからず

一張方の不注意　或る段物は晒張の際彈力過强の竹製彈器を用ひしため織幅の兩端數分の間地絲開放して一見使用に堪へざるものあり此缺點を有する段物は輸出の際幾分か法意撰擇するものと見へ其數多からずと雖も往々混入を來し織絹物取引者の嫌厭を招き販路を妨害することあるを以て我絹業者の注意を要す

一尺幅の不同　我羽二重の織幅不定にして同一品中廣狹不同の缺點あるを免れざるは曾て報告せし所なれども今日に至るまで依然此弊を存するは遺憾に堪へざる所なり

一重量の不同　我羽二重の重量不定にして同一種類の品中輕重を同くするもの少きは曾て報告せし所なれども未だ完く此缺點を除くに至らざるは亦遺憾に堪へざる所なり

一整理の不完全　整理方法の缺點に關し曾て報告せしも九十三年間輸入段物を檢するに一として改良を加へたるものなきは深く遺憾に感ぜり今之を再言すれば左の如し

（一）我羽二重の疊方は首尾兩端を縫合せたる後二重とし層々疊み合せたるもの多きより展覽切賣に不便なるを以て首尾を縫合はせず一重つゝ疊み合すべし

（二）佛製段物は織出しを上端に出しあるを以て段物を開けば直に之を見出し得べきも我羽二重の織出は疊み込あるを以て展覽切賣に不便なるを以て成るべく容易に織出しを見出すべき樣疊み合すべし

（三）疊方に一定の方法なく甲品は乙品と異なるもの多きを以て當業者は大に不便を感ずるより甲乙の品柄及産出地の異同を問はず成るべく疊方を同一にするを要す

一染方に關する注意　我色物羽二重中著色鮮麗にして大に嗜好に投ずるものなきにあらずと雖も概して之を言へば我染術は改良を要するの點多かるべし爰に桑港絹業者の最も喧しく苦情を唱ふる要點を指擧すれば第一著色變褪の憂ある事、第二同種同色の品を注文するも著色の濃淡均しからざるため注文の色合と一致せざる事殊に黑色の如きは我染工の最も短所なる趣にて到底需要者を滿足せしむる能はざる諸點に在り故に色物羽二重は白地にて佛國に送りて染上げたる上合衆國に輸入販賣する者甚だ多し目下太平洋沿岸地方に在りて販賣する我黑羽二重の如きも多くは佛國に於て染上げたるものなり事情此如きを以て色物羽二重の市價は割合に高價なるより需要者は動もすれば他國產品を擇用するの傾あり今後羽二重の需要愈々增加するの趨勢あるに際し獨り黑物に限り歐洲を迂廻して輸入せらるゝは決して策の得たるものにあらざるを以て將來我絹業者に限り染方改良の法を講究し合衆國當業者をして佛國に依賴するの必要を免れしむるときは本品の販路を擴張するに於て思半に過ぎん

右は合衆國へ輸入する我羽二重織物に關して改良及注意を要する諸點にして我絹業者に於て一刻も等閑に付するを得ざるものとす然るに日米兩國貿易經營の現況を觀察するに我絹織物の大半は概して我開港場に在る洋商の手に由りて外輸せらるゝものなるを以て我絹業者の責任は開港場に在る洋商に賣込みたる際に於て終を告げ其賣送後外國へ輸送販賣するの責任は一に洋商に推委するの害あり故に外國に在る絹織物の商況若くは其改良を要する件に關し直接利害の衝に當るは右等の洋商にして我絹業者は稍々間接に痛痒を感ずるの傾あるより我絹業者に對して改良を促し注意を呼ぶの聲は恰も一葉の玻璃を隔てゝ談話を試むるが如く容易に徹せざるの狀あるは大に患ふべき事故なるを以て我絹業者に對して力て中間の障碍物を棄てゝ事の利害消長を直接に感觸することを希望せざるを得ざるなり又我絹業者が身を外國市場に接近することを勞むべしとの注意に關し二十五年々報を以て報告せしことあり事性實を同くするを以て交互參觀せば自ら稗益あるべし

●雜報

◎米國生絲商況の一斑

此程米國より歸朝したる横濱同伸會社の重役にして紐育支店詰たりし高木三郎氏の直話なりといふを聞くに曰く氏は同地に滯在せること一年半其間親しく見聞したる米國に於ける生絲商況の一斑なりとて說き出だせるやう同國商工業の變化は昨年のシカゴ大博覽會の當時に於て殊に甚だしく其實況を知るものは今尙ほ戰慄する程なりといふ即ち彼の銀問題の爲めに一時經濟社會の紊亂を來し各地銀行倒產するもの相接し就中西部小銀行は非常に困難を極はめたると共に商工業は大に縮したれば博覽會の結果も面白からず自分の如きは各製絲家より委托されたる生絲を出品し米國政府より生絲部の審査官を拜命したれば出品の審査は勿論、其賣捌方に就ても頗る盡力したれども十分好結果を得ず却て委托者より苦情を聞くの始末なり其盡力の現はれざりしは太だ遺憾なれども畢竟時運の悪しきに因るものなれば是非も無き次第なり然れども縱覽の歐米人に對し自分等

は勉めて種々の絲計を示して我製絲業の進歩と改良とを說明したれば大に其人々の注意を惹起し生絲貿易の將來に多少の稗益を與へたるとは不幸中の幸なりしと偖愈よ博覽會の終りを告げ一般の商工業も稍や恢復せんとするに當り又々關稅問題起り其經濟社會に及ぼしたる影響は銀問題に讓らず從て職工の同盟罷工起りたるなど商業上の困難大方ならず近來平穩に復したれども久しく紊亂せし市場は容易に旧復すべきにあらず況して生絲の如きは伊、佛、支那等の競爭もあれば賣行中々困難なりきされば本年の新絲は未だ十分の取引なく同國への輸出額は僅かに昨年の三分の一に過ぎずして前途の見込も確かならざるものゝ如し抑も米國に於ける絹絲の需要は年を逐ふて增加するものなれば不景氣の一事を以て俄かに憂慮するに足らずと雖も此處に最も注意すべきは本邦製絲の改良にして當業者も知る如く日本絲純白色にて一見頗る精良の思ひあれども之を伊、佛若くは上海の上等器械製絲に比較すれば劣る處多く殊に近來は毛類多く又は綾振り外れ、二本揚げ等の絲を輸出するものあるを以て織屋の不評判を招き大に販路に妨害を與へたり而して毛類は信州絲に多くして關西絲に少きものゝ如し唯信州絲の米國に多く輸入せらるゝは中以下の織屋に於て需要するが故なり其他の地方にて製出する生絲の上等織屋に使用さるゝものも亦左程少額にあらざれば今後大に其製法を改良せば好結果を得べきも若し此儘に放任せば伊國幷に支那絲の爲めに漸次販路を蠶食せらるべし云々

◎清國黨の英國人とは取引せず　横濱居留地在住の英國人中には兎角清國贔負のものありとのことなるが我が貿易商は彼等の擧動に不快の感を懷き自今成るべく清國黨の英人とは取引を爲さゝるべしとの決心をなし既に某々の生絲商の如きは彼の清國贔負の爲めに賭に負けて壹萬圓の大金を取られたる英國人某とは取引を爲さずと大に憤慨し居るよし日清戰鬪上の敵愾心は延いて平和の戰爭たる貿易上にも亦及べるものと謂ふべし

◎清國產絲の好評　上海に於ける外國人が清國產繭より製出する所の生絲は其の絲質といひ光澤といひ又其の粘力といひ總べて伊佛及日本の生絲よりは一層の好評を受け近年益々殷米の市場に向つて其販路を擴張し來れりとは內外人の共に許す所なるも如何せん從來拙劣なる清國人の手にて製出せらるゝより原繭の善良なるにも拘はらず生絲の價値を損じ來りしに晩近は外國人の之を製出するもの漸く多きを致し日本生絲に對峙して一勁敵たるの勢を示すに至れりされば本邦の當業者は愈よ奮つて彼を折衝するの策を講ぜざるべからずとて此程紐育より歸朝したる横濱同伸會社の重役藤井三郎氏は本邦生絲改良の忽諸すべからざることを關係の人々に向つて說示せりと云ふ

◎宇津宮大嶋社の即日破談　伯州山陰製絲と云ひ宇津宮大嶋社と云ひ何れも本邦生絲の有名品として誇る所外商も深く信を置きしものなるに一昨日午前三井より二百六番へ買約せし宇津宮大嶋社が即日破談を告げしは市場に一驚を與へしやに思はれたり聞く同氏が勢州度會七百七十弗を引込みたは宇津宮の替玉にして同製絲は意外にも「キレ」甚だしくして其有名品たるの實全く缺くる所ありしが爲めなりと云へり注意す大嶋社は年久しく海外に知られ信用また篤かりしもの尙ほ此弊ありしか製絲家たるものの名譽に甘んぜず益す精撰製絲の心懸けこそ望ましけれと或人は語れりと這は是れ八月三十日發兌東京日々新聞の記する所知らず果して此事ありしや否や

◎關東蠶絲業者の大會　近來我蠶絲は歐米人の需用を增し輸出の多きと共に其產額も亦非常

の速力を以て增進したれども全國幾多の製絲家は兎角に協同一致の力に乏しくして其進歩に秩序なく横濱市場振引の有樣は依然舊態を改めずして外商の爲め尙ほ利益を壟斷せらるゝのみならず曾て議會に於て直接の利益に關する諸問題の提出さるゝも一として成立するに至らず之を彼の紡績業者が棉花輸入稅を全廢せしめ更に進んで孟買航路を開通せしめたるの事實に比せば啻に雲泥の相違のみにあらざるべし今や英國と條約も改正せられ引續き米佛其他諸國との改正も近きにあらんとし當業者が一致結合を要する氣運に向ひたれば此に先づ蠶絲業者の大會を開かんとて過般來富岡製絲所長津田興二、德江製絲所主德江八郎の兩氏が首唱者となり長野以東の諸府縣下を奔走して忽ち數十名の發起同意者を得たるに由り已に此程發起人會を開き彌よ本月二十日二十一日の兩日を以て群馬縣前橋市臨江閣に於て關東蠶絲業家の大會を開設することに決し專ら其準備中なりとの事なり當日は發起人會の決議に基き福澤諭吉翁を招待する筈にて發起人中由京の上翁の都合を聞合せたるに差支なき旨にて其承諾を得たるよし又横濱同伸會社の高木三郎氏同生絲合名會社の大竹某は近頃米國より歸朝したるに付き是迄彼國に在りて親しく見聞したる事柄を聞き且つ三井物産會社上海支店長小室氏に支那繭の談話をも聞かんとて夫々へ其趣きを照會したるに孰れも出會を許諾したりと云ふ當日の景況は尙ほ次報に揭載する所あるべし

◎買入れ生繭の審査　島根縣那賀郡濱田町の濱町製絲所にては一石以上買入れたる生繭の幾分を存し置きて客月二十六日より三十日迄に其審査を爲し本月一日より三日間衆人の縱覽に供せるが其數は凡そ百餘點にて優等者三十三名に賞品を贈與せし由同製絲所に於て此擧あるは今回が二回目にて

生繭をありのまゝに審査することゝして當業者奬勵上頗る有益なる結果を呈すと云ふ

◎蠶蛆に就て金子氏の意見　山形縣東置賜郡屋代村の金子孫左衛門氏は本年六月中偶然蠶蛆の原因を發見せりとて其事を世に公にされたり乃ち其報告書は左の如し

養蠶の道年を追ふて進歩發達すると同時に政府は斯業を奬勵せられ精を窮はめ微を盡して幾んど餘蘊なし彼の微粒子毒の如きは顯微鏡の方既に之を除くの道を得れども蠶蛆の害に至りては未だ之を防ぐの方法を發見せず余刻苦研究茲に年あり然れども其肯綮を得ず余曾て蛆を養ひ之を化せしめ數翅の蠅を得たり惜むらくは其未だ孳尾期に至らずして皆斃る之を解剖せしに其仔蟲始め稽聞形にして恰も卵に均しき觀ありき尙ほ四五日を經て見しものは未だ成熟に至らざれども蛆形已に備はれり茲に始めて佐々木長淳氏の喰卵說に疑團を生じ大に蠅族を驅捕して其仔蟲如何を試みしに始めは一種淡黃色の液分變じて球粒狀の卵形となり漸次稍圓形に化して蛆躰に近似し日を經るに從ひ完全なる蛆形を成して熟するを常とす

凡そ蠅屬を類別して二種とすれば尾部に注入器を有するものと然らざるものとあり之を有するものは概して肉類に注入して之に寄生せしめ其仔蟲の繁殖を期するもの多く有せざるものは重に腐敗物に產下せざるもの寡しと雖も凡て蠅屬は胎生にして未だ曾て卵生のものを見ず況んや同種にして蛆卵交々相化するものに於てをや

彼の害蠅の仔蟲の如きは胎生のものなるを以て蠅自ら蠶躰に寄生せしめざるを得ず其自ら之に寄生せしむるものとすれば若し大蠶蠶にして過半蛆害に罹る場合は數多の蠅を室內に現出せざるを得ず

と雖も亦斯ることを見ざりしなり思ひ茲に至りて疑團堅結氷解の時期を得ざるや久し然るに本年に至り明かに其原因を發見することを得たり今其次第を略記して普ねく當業者諸君の參考に供せんとす

明治二十七年六月十一日午前八時三十分(蠶見五齡の二日目)初回の給桑は已に喰ひ盡して正に次回の給桑時刻至れるを以て蠶見發育の程度と乾濕の振合とを掛酌し其分量を定めんと欲し蠶室に到るや偶々曾て疑ひを抱きつゝある一種の蠅(繭を突き破り出づる蛆を試みに化せしめたる蠅と同樣にして其形稍々細く飛行頗る自在なりき唯比較的腹部少しく淡色を盛ぜしのみ)蠶躰に附着し注入器を擬出するや忽ち蠶躰に挿入したるを見る此器は即ち產下門なり其挿入せらるゝや蠶見困んで頭を搖げ之を避けんとするの狀あれども蠅は依然として去らず其間凡そ五秒時を經て去りて他の蠶に移り又前の如し已に注下せられたるものは其疵所より球粒狀の液を滴らせり暫時にして尋で三頭を害せり四頭目に及びしを見て之を捉へ試みに腹部を輕く壓搾せしに悉く成熟せる百有餘の仔蟲產下門より出づる最滑らかに蠢々として匍匐せり尙ほ解剖せしに未熟の仔蟲二十許を餘せり今茲に始めて探究の緒を得たるを喜び半ば奇異の思ひを爲し更に大に人を集め蠶室を探索せしめ二日間に十室より驅り得たる其數一百以上に及べり實に案外の多數に一驚を喫したりき之を調査せしに蛆の已に成熟せしものの凡そ七十有餘にして未熟のものは三十翅なりき其後日毎に各室內を驅らしめしに日として若干を捕殺せざるなく而して三四日を經て捉へ得たるものゝ蛆は悉く成熟せざるものなきのみならず已に產み盡したるもの却りて其數多きを見る尙ほ其後四日程經て頻りに求むれども更に一蠅だも得る能はざるに至れり

偖て被害蠶一頭は直ちに之を解剖せしに前きに搾出せるものと同樣の蛆(長一ミリメートル四幅〇、四)を得他は甲乙丙の三段に區別し甲第六節にて背管の中央を害せられたるもの乙第六環輪の左側(氣門の上)を害されたるもの丙第七節にて乙と同樣の位置なるもの三頭を試驗室に移し特別に之を飼育せしに敢て異狀なかりしも只甲は發育充分ならずして繭も稍々小形のものを結べり而して被害の當日より十一日(上簇後六日)目にして乙丙は蛹に化せしも甲單り化せずして死籠りとなれり之を解剖せしに則ち蛆を得たり然れども發育未だ其度に達せずして凡そ七歩位のものなりき乙丙を自然に任して蛆の出づるを試みしに乙は十八日目に丙は之より一日を經て出でたり而して乙は上簇後十三日にして丙は十四日目に當れり尙ほ丙は上簇に至るまで疵所明らかなりしも甲乙の如きは被害後三日を經て癒えたるが如く痕跡だも見えざるに至りしも蛹に化するに及びて復た判然たりき

茲に於て彼の蛆は全く前の蠅なるもの其仔蟲を產下して巧みに蠶躰に寄生せしむるより生ずるものなるを判明することを得たり彼の害蠅一翅は幾許の健蠶を斃し幾許の美蛹を殺し幾許の佳蛾を害するものぞ一翅にして其尙ほ斯の如し況んや數十翅をや彼の捕殺せし數翅の腹中より搾出せる仔蟲幾數萬なるを知らず余之を見て思はず戰慄したりき

按ずるに彼の蠅は二翅族の一種にして風土の異なるに從ひ遲速の別あれども概して蠶孵化の頃と同時に發生し凡そ四週(普通養蠶四齡の半ば)間にして第一期仔蟲(蛆)(胎內にありて未だ產下せられざるもの)成熟す此屬は大麻蠅と性稍々均しく元來腐敗物を好みて其仔蟲の養育を期するや疑ひ

を容れず然れども彼れは死物に是れは活物に寄生せしむる所以のものは大蔵蠅等の仔蟲に比して其發育遲鈍にして多くの時日を要するを以て鱗翅族及蝶族等の仔蟲に注下し其養分を貪りて半ば玆に養ひ而して之を斃さんとす其斃れて腐敗するや頓に發育を遂ふするの性あり然れども當初より死肉の如き腐敗物に產下せざるものは蓋し第二期仔蟲(蛆)(已に產下せられて未だ成長に達せざるもの)の成長に先だち腐敗物乾燥せば啻に其發育を期し能はざるのみならず爲めに中途にして枯死するの虞あるを慮かればなり而して其產下を始むるや尙ほ二週間以上を存し前後六七週間を生存するものなるべく其第三期仔蟲(蛆)(已に成長に達して未だ蛹に化せざるもの)の土中に潛みて復た蛹に化するや堅牢なる漆黑色の殼皮を被ひ數週にして已に殼內に於て蠅形をなして越年せるものと認定せり

嗚呼當業者諸君よ此事たる根源を窮はめ驅除の道其宜しきを得は養蠶社會の一大進步にして啻に斯業に幸福なるのみならず乞ふ諸君其之を扶けよ

◎佐々木博士の駁擊　前項金子氏の意見に對して佐々木理學博士の駁擊されしものは左の如し

農科大學教授理學博士　佐々木　忠二郎

蠶蛆の原因

此頃山形縣の養蠶家金子孫左衛門と云ふ人蠶兒蠅害發見報告と題せる者を著し各地に配分するに接し余も亦幸に右報告一葉を得たり之を披見するに氏は自ら刻苦研究玆に年あり云々と稱せらるれども未だ余が明治十八年に著したる蠶の蛆なる書を一讀せられざるが如く又た蠶蛆に就き小生の調査を自ら試みられざるが如し加之氏の蠶兒蠅害發見の順序は其當を得ざる所あるを以て其成績の如きは亦確實なりと斷言すべからず氏は實に養蠶熱心家なり蠶兒蠅害熱心家なり其熱心家なるが故に今回の著あり賞すべき事なるも發見の順序其當を得ることなく從て其成績確實ならざる時は假令之を各地の養蠶家に報ずるも敢て益する所なく反て疑惑を起さしめ遂に驅除豫防の方法を誤ることなしと云ふべからず故に余は氏の說に就き余の意見を左に陳述し讀者に過失なからんことを希望するものなり

金子氏曰く「余曾て蛆を養ひ之を化せしめ數翅の蠅を得たり惜むらくは其未だ孵尾期に至らずして皆斃る之を解剖せしに其仔蟲始め楕圓形にして恰も卵に均しき觀ありし尙ほ四五日經て見しものは未だ成熟に至らざれども蛹形已に備れり云々原文の儘」

金子氏は蠶蛆の蠅は孵尾せざるも尙ほ能く其腹內の卵子は發達せるとなせり孵尾せざれば決して卵子は發達する者に非ず是れ誤謬の一

金子氏曰く「凡て蠅屬は胎生にして未だ曾て卵生のものを見ず云々原文の儘」

是れは金子氏一個人の臆說にして識者の許さざる所なり即蠶蛆の蠅は卵生にして胎生に非ざるにも拘らず蠅類は總べて胎生なりと認められたるは是れ誤謬の二

金子氏曰く「曾て疑を抱きつつある一種の蠅蠶躰に附着し注入器(下卵器の事か)を挺出するや忽ち蠶躰に挿入したるを見る此器は即下卵門なり其挿入せらるるや蠶兒困んで頭を擡げ之を避けんとす

るの狀あれども蠅は依然として去らず其間凡そ五秒時を經て去て他の蠶に移り又前の如し云々原文の儘」

金子氏は蠶蛆の蠅は注入器（下卵器か）を具へ之を蠶躰に突き入れ巧みに蠶躰内に蛆を産み入るるが如く言はるるも蠶蛆の蠅の下卵器（金子氏の注入器又下卵門）は柔かなる細管の如くにして蚕の劒の如き者は決して具へざるものなれば決して蠶躰内に之を突き入るること能はざるものなり是れ誤謬の三但し此一點にても金子氏の研究は全く誤謬たるを證するの價値あり

金子氏曰く「蠶室を探索せしめ二日間に十室より騙り得たる其數（蠶蛆の蠅の數）一百以上に及べり云々原文の儘」

金子氏は蠶蛆の蠅は蠶室内に飛入るものと見做せども蛆蠶の蠅は蠶室内に決して飛入るものに非ず氏の目擊し騙り得られたる蠅は蠶蛆の蠅には非ずしてギン蠅、クソ蠅又はシマ蠅の類ならん是れ誤謬の四　因に曰く金子氏の蠶室内に多數のギン蠅、クソ蠅、シマ蠅の類を存したるものとせば氏の蠶室は隨分清潔ならざるが如し

金子氏曰く「其産下を始むるや尙ほ一週間以上を存し前後六七週間を生存するものなるべく其第三期仔蟲（蛆）の土中に潛みて亦蛹に化するや堅牢なる漆黑色の殼皮中畧已に殼内に於て蠅形をなし越年せるものと認定せり云々原文の儘」

金子氏は蛆の蠶躰に寄生するまでは他種の蠅蛆に就きて取調べられ蛆の老成して蠶繭より這出でたる後は眞の蠶蛆に就きて取調べられたるが如し是れ誤謬の五

金子氏は養蠶、蠶蛆等に熱心なるにも拘はらず右の如き大誤謬を來したる所以のものは他なし氏は蠶蛆の蠅と他種の蠅との區別を了知せられざるに原づき且蠶蛆の蠅は如何なる形狀の者にして如何なる着色のものなるやを了知せられず加之蠶蛆の發育如何に充分注意せられざることに因するならん讀者よ請ふ金子氏の臆說を信ずること勿れ

抑ゝ蠶蛆の蠅は毎年三四月に發生し出て五月乃至六月に交尾し桑葉の裏面に産卵し蠅卵桑葉と共に蠶見の胃中に入りて初めて孵化し從て神經球内に闖入し從て氣門内に這入り是に蛆は老熟す蛆の老熟したる者は重に繭内に蟄したる蠶見若くは蠶蛹の皮膚を破り出で次で蠶繭に孔を穿ちて這出で地に下り土中に入りて蛹となり冬日を經過し翌春に及びて初めて蠅に化生するものなり讀者請ふ之を記憶せられんことを

◎神戸生絲市場の不振

神戸港に於ける生絲の取引を挽擴せんとして同港の神榮會社にては生絲荷物の取扱を勉め又關西蠶業會にても會員を各府縣下に派遣して出荷を勸誘せる由は曾て本會報にも掲載せしことあるが迚も其効能無かりしものと見え本年は最早生絲出荷の時期に向へるも依然として出荷寥々たるのみか例年なれば多少の取引はあるに本年は却りて僅々の手合あるに過ぎずして實に不振の極なるより同港に於ける生絲問屋の隨一とも呼ばるゝ神榮會社に在りても斯くては到底望なしと斷念したるものにや弗々出廻はる荷物も同港へは少しも貯へず直ちに横濱支店に回送して之を販賣せしめ神戸には毫も念を置かざるものゝ如し屈指の問屋既に既の如くなれば其他の諸問屋に於けるをやされは同港にて從來發行する蠶絲景況報道を主とせる關西蠶絲新報の如きも此程全く廢刊するに

至れり以て同港市場の如何に不振なるとは且つ其將來に望なきとを察知するに足れり

◎新發明の蠶種販賣法　東京淺草觀音の境内（所謂奥山）にて齒抜き松井源水が居合又は曲獨樂の後を演しつゝ齒磨粉及口中の附藥を販ぐは誰しも知れる所なるが夫れと一對の商法こそ顯はれたり扨は如何と云ふに福井縣勝山町の松井市造、時業願一、南部武雄、高橋彌二となん稱する人々にて蠶に協議の上「アクセ」蠶種一萬枚を製造したるも之を賣兼るよりして茲に一計を案出し幻燈會を開きつゝ地方を巡回して右の製種を賣廣めんとすること是なり今其概況を聞くに其巡回地は何れも山間の僻村なれば物珍らしきことゝて見物人は我も〳〵と押寄せて場中人山を築ける折好き頃合を計りて先づ最初に幻燈にて種々の蠶見に關する圖を映出し次第に談話と變じ遂には自己の製造せし蠶種を買呉れと云ふに至りて見物人は異口同音に蠶見々々否歸ろ〳〵

◎蠶種下附願人員及枚數　農商務省農務局に於ては西ヶ原蠶業試驗場にて製造したる本年の蠶種を全國有志者へ下附すべき旨豫て其向々へ通知せるが本月九日迄に各府縣を經て同局へ請求せし人員及蠶種の枚數を調査せし高を聞くに總人員は二千二百二十八人にして其枚數は五千六百九十枚なりと云ふ

◎次官の演說及生徒の答辭　農務局西ヶ原産業試驗場にて曩に擧行されし蠶業傳習生の修得證授與式に於ける金子農商務次官の演說及傳習生總代の答辭は左の如し

金子次官の演說

本日蠶業傳習生の卒業證書授與式に際し本官は農商務大臣の代理として此式場に臨めり農商務大臣は國務多端の際にも拘らず是非此席に臨まるゝ筈の處昨夜來緊急の事ありて其れが爲め本日は出席無きも農商務大臣は非常に蠶業に熱心せられ此業の前途に就き大に望を屬し常に本官等に命じて其發達を畫せしめらる本官に於ても嘗て此業の發達せざる可らざる事に就て諸君の前に陳述せんと企望したりしに今日は農商務大臣の代理として此に臨席且一言し得ることは本官の榮譽とする所なり依て簡單に所思を陳すべし

夫れ蠶業の國家經濟の第一位を占め居る事は本官の陳述を俟たず諸君の疾くに知悉する處にして外國輸出品の中に於て最多額を占むるものは實に生絲なりとす而して當場には專門の技師ありて蠶業の教授を掌り居る事なれば諸君は必らず此業に付き有益なる薫陶を受けられたるならん故に國家經濟の點より觀察すれば諸君は非常に多望なる將來を負擔せられ諸君は實に榮譽ある業務に從事せらるゝものなり

養蠶に必要なる事項は余の考ふる所に依れば凡そ五種なりとす第一氣候の温暖なる事是なり即ち寒帶及熱帶地方に於ては養蠶の事業は適當せざるが如し而して本邦の如きは幸に温帶に位し四時の氣候尤も中和を得て既に天然の養蠶國たるなり第二養蠶の事業たる其大部分は農業に屬せるを以て到底農業國に非ざれば發達せざるが如し然るに我邦は古來農を以て國を立て且農業には尤も適當する國柄なりとす第三養蠶は賃銀の高額なる國に於ては發達する能はず何となれば養蠶業たるや桑を摘み蠶を養ひ絲を採るが如き專ら手工を要する者なれば故に歐洲の或る國又は米國の如き生活の度高ふして賃銀の非常に高き國に於ては蠶業の盛昌決して期すべからざるものとす幸に日本の如き

は右等の外國に比しては賃銀低廉なるが故に最も此業に適せりとす第四蠶業は手工を要すること尤も多くして指、目、腦の三者の働き平均し相伴ふて始めて完全なることを得るものなり而して本邦人は天禀此三者の働き機敏にして眼にて見直に之を行ふことを得るの特性を有す往年余が米國に在りしとき工業に關する種々の報告を一讀したるものゝ中獨逸、英吉利、「デンマーク」等の如き「アングロ、サクソン」に屬する人種は指先の仕事は總て不得手にして養蠶等の業は之に適せずと云へることあり然るに本邦人は此指先きの仕事に於ては殆んど世界中其比を見ざる人種と云つて可なるが如し第五蠶業は工業的の思想なき人種には不適當なる事業なるが如し抑も養蠶は農業に始まり工業に終るものなり而して我國は古來工業國には非ざりしも明治四年富岡製絲場にて器械工藝を應用せしに始まり今に至りては全國殆んど器械を應用せざる所無きに至り實に驚くべき進歩を爲すに至れり生絲の需用增加するに從ひ工場も追々盛大となれり

生絲の產額年々增加することは統計表を見て明かなり然らば蠶業は將來非常に望を屬すべきものにして專門家より聞く所に依れば生絲輸出高の多きは第一支那第二伊太利第三日本第四佛蘭西なりと今伊太利支那を排斥して本邦生絲を最多額と爲さしむるは諸君の責任にして諸君の將來は實に多望なり我邦の蠶絲に付ては尤も緊要なる得意場たる亞米利加に於て養蠶教師を雇入れて此業の發達に盡力せしも其結果十分ならずして終に之を廢止し目下は專ら外國の生絲の供給を仰ぐに至れり

我日本國は一方に於ては宇內に於ける輸出の多額を占有する支那あり又他の一方に於ては精巧なる生絲を產出するを以て有名なる伊、佛の二國あり然れども今や我國は西に向ては支那の輸出を凌駕し東に對しては伊、佛二國の精巧を壓倒せんとする地位に進行せり而して其大事業を遂ぐるは諸君を措て他に適當なる人物を見ざるなり然るに從來の卒業生の數を計算するに尙ほ僅々千零四十餘名に過ぎず之を生絲の輸出額に比較するに實に九牛の一毛と云はざる可らず故に將來は諸君の如き蠶業を學理的に研究したる人物が地方に散在して此事業の進歩を計らんこと余は切に國家の爲に望む所なり

諸君の手を以て扱はるゝ粟粒の如き蠶卵は文部省管轄の校舍、逓信省の鐵道、陸軍の兵器彈藥海軍の鐵艦となる是れ皆な諸君の愛育に係る蠶卵より發生したるかを思はゝ一粒だも輕卒にすべきものにあらざるなり實に諸君の從事せらるゝ蠶業は國家の事業に付き尤も重大なる關係を有し且つ將來頗る多望なるものと云はざるを得ざるなり

尙ほ終に臨んで一言せん實業家とは讀で字の如く實業に從事するものにして決して空理又は空論に走らず擬身以て實務に當り平生の素行を以て他人を率ゆることを勉め以て國家に盡すべき義務を擧行すべきものとす今此式場に臨み本官が諸君に相見るの榮を謝し併せて諸君の歸鄉を送るの撫言に充んと欲す

傳習生總代田中良太郎氏の答辭

談笑の間能く輸贏を決し其勝敗而も國家經濟に大影響を及ぼすものは現時內外商戰の狀体にして而して此場裏に馳驅して能く吾經濟を支持し輸出額中常に大部を占め伊佛淸の大敵あるも之に當りて屈せず尙後來是等の大敵を競爭場裏に惱殺し利得を全世界に獨專するの望み隱然其間に存する者は

吾蠶絲に非ずや夫れ然り實に蠶絲の吾國の金庫商戰場裏の最大武器なり故に之れが素たる養蠶業に意を注ぎ其製出の多からんとを務むるは國民たる者の目下盡くす可きの要務なりと信ず然るに退で當業者の狀体を觀察すれば今や全國擧げて此業に從事するにも拘らず其多くは改良の何物たるを解せず舊習に泥み多畏少獲得失相償はず爲めに往々怠惰の崩ありて存す慨歎の至りならずや嗚呼今にして改良振興を策り舊風を矯むるに非ざれば他日臍噬百年の遺憾を招くに至るや照々乎として明かなり不肖等茲に感ずる所あり本場に學び諸師の教導を煩はす茲に六閲月今や業成り本日を以て證書授與の式を擧行せられ農商務次官閣下、農務局長閣下の臨席を辱ふし且つ懇到なる訓詞を賜はる不肖等の光榮何ぞ之に過ぎん反顧すれば不肖等の今日は未だ業を終たるに非ずして今や重任を負ふて目的の地に達せんとするの道途なり嗚呼其任重く其途遠し不肖等の淺識短才之れが任に堪へざるを恐る然れども古人云へり精神一到何事か成らざらんと不肖等此言を服膺す示後粉骨碎身以て初志を貫徹し國恩の萬一に報ぜんとを期す

◎佐藤栃木縣知事の祝辭

前號の紙上に掲載したる大日本蠶絲會下野支會開會式擧行の當日席上に朗讀されし栃木縣知事の祝辭は左の如し

蠶絲は我國重要物産中の重要なるものにして之が盛衰は國運の消長に關す故に蠶絲の改良進歩を計るは頗る緊急の要務とす頃者本縣下に於ける大日本蠶絲會員諸氏は大日本蠶絲會下野支會の設立を企圖し其の却書全く成り今や發會式を擧行するに達ふ抑も支會の興る是れ正に蠶絲業界に一の新機關を生出したるものなり故を以て深く斯業の爲めに祝せざるを得ず會員諸氏益々奮勵して蠶絲の改良進歩を務め其機關たるの實を擧げ以て國運の隆興を圖らざるべからず是れ正に諸氏の任なり夫れ旗を勉めよ式に臨み聊か之を祝す

栃木縣知事　宮川潛藏氏報

明治二十七年八月三十一日

◎蟋蟀蠶種を食す

岩手縣　佐藤暢

本年八月夏蠶種を製造し机上に置きしに其夜之れを食害せられたるを以て鼠害と思ひ其翌夜は其室に鼠の侵入を防ぎしも其甲斐なくして矢張り一二蛾分の蠶卵を食せしものあり因て考へしに鼠ならば原紙をも傷くべきに其紙をば損ぜずして蠶卵のみ食ひしは他に必ず害物あらんと信じ其夜は類りに注意せしに一の蟋蟀（黒褐色の蟲）蠶卵紙上にありて清音を弄するを認めたり就て其蠶種を點檢すれば則ち一二蛾分を食害せり途に又其食するをも認め愈以て此蟋蟀の所爲なるを明かにせり乃ち予は或雜草の葉裏に産付しある蟲卵（親蟲の名不詳）を取り蟋蟀を籠に入れ置きて之れを與へしに此卵をも食せり因て考ふるに該蟲は獨り蠶卵のみならず種々の害蟲の卵をも食するものならん乎果して然らば益蟲として吾人農家は益其繁殖を計りて可なり否らずんば之れを驅除せざる可らず故に余は向明年之れが試驗に着手すべしと雖も亦讀者諸君に精確なる試驗を企望するなり依て報す愛蟋蟀の養蠶家は蠶種を近づくるとなからんを

◎横濱市塲生絲の商況

此程横濱蠶絲業組合事務所に於て調査し其筋へ報告したる本年五月より八月に至る同港市塲生絲商況の一斑は左の如し

生絲

二十七年	五　月	六　月	七　月	八　月
入荷高	二、五四八俵	三、八〇二俵	一二、一〇三俵	一六、四七六俵
引込高	三、三六三	二、三〇六	五、六九二	一四、〇四六
引戻高	九六六	七六六	一、五二七	二、八一〇
内地積戻	一、五三六	九七二	八七三	四六三
直輸出	六一一	四六八	四八二	七一三
在荷	一〇、四八五	九、二七七	一三、九四二	一四、四八一
屑物				
入荷高	二、三七八俵	六三四俵	四、五七七俵	九、二〇六俵
引込高	二、三七八	一、八九二	二、四〇八	二、一五三
積戻し	一一三	二、六〇七	八二二	二七二
在荷	二〇、一一〇	一九、二九三	二〇、七二一	二七、一一五

二十七年五月中

前月來市場は依然引き立たず殊に爲替相場は又々二十五仙方の小締りとなり市勢極めて沈靜なりしが偶々某商部へ安直なから器械絲少數の注文達し又内商は時節柄賣人氣の折柄なりしため一二日の賣買出來す漸く中旬に至り安注文なから入電ありて米國向、歐洲向器械絲、折返絲等珍らしくも一時に三百梱餘の手合行はれ又下旬に稍々氣配引立ち細筋器械絲は三四日間にて殆んど一千梱餘の賣

行きありたれども至りて安價の取引にして市場は再び不味となれり

二十七年六月中

市場極めて沈靜殊に海外電報に據れば歐洲各國の蠶作頗る上作の見込み確實となり歐米兩市場とも頓に沈靜を極めたりとありしより之れが影響にてか一層不味を加へ中旬に至りては恰も休業同樣の姿にして唯見送り居るの情況なり下旬に至り新絲は弗々見本品の買入れありて細筋品は新古絲に拘はらず一寸買氣を呈せしに俄然佛國大統領の暗殺せられたる飛報達するや大に人氣を挫折し之れと同時に佛國市場に於ては一層の不味を極はめ已に發したる注文も取消しを申來りたるが如き現勢なれば爰處信に面白からざる市勢なり

二十七年七月中

市場は不相變沈靜にして薄商内なり細筋品は弗々賣行きあれども太筋品は兎角手薄の狀況にて中旬を經過し下旬に向ひ不活潑ながらも米國向き太筋器械絲の注文に接せしより之れが適當の品は相應の賣買あり又必要手口なる歐羅巴向き細、中細絲の賣行きありて價格も一寸小堅き方なりと雖も其多くは指名品にあらざれば何れも注文適當品に止まりて一般の商勢に於ては差したる異狀も呈せず矢張り不振の狀況なり

二十七年八月中

前月に引續き相變らず不振の狀況にして絲價も兎角底意弱の傾きあり何樣連月の間市場不振にして僅かに必要口の薄商内のみ行はるゝ位に過きざりし爲め市中在荷は益す堆積するに至り漸やく中旬

に向つて米國向き器械絲及坐繰絲を合して一時に二千九百餘梱の賣行きあり且つ價格も幾分か上直に進みたり之れより漸々市勢を一變し活潑なる取組み行はれ價格も著るしき差異を生ぜり下旬に向ひ爲替相場は非常の暴騰を現はし爲めに肝腎なる絲價の標準を失したれば俄然市勢に一頓挫を呈したりしが一朝爲替相場の下落せしより氣勢を挽回し外商各館にて買贖ひしかば價格忽ち昇騰を來し相場は愈よ上向きの一途に進み底意倍々手堅かりしに月末に至り又々爲替相場の暴騰せしより忽ち氣勢を挫折し甚だしく不味を呈するに至れり

◎日本蠶種貯藏株式會社

埼玉縣見玉郡本庄町に設立する同社にて本年貯藏したる蠶種は正蟻量四匁より平均十四貫目以上の收繭ありて之を非貯藏種に比較するときは殆ど一倍の收益なりと云ふ頃日同社より主意書を寄せられたれば左に之を揭ぐ

凡そ蠶種の要務は蠶種と貯藏とに在り蠶種の忽せにすべからざるほ言を俟たずと雖も苟も貯藏の方法其宜さを得ざる時は如何なる良種と雖も能く其效を維持すること多しとす徒來の經驗に據るに大抵蟻量四匁より七八貫目を得るに過ぎずと雖も現に貯藏種を以てせる飼育の成績に亟りては殆ど一倍の收益あり如斯其收益の大差あるは病蠶の多寡に由る事勿論にして病蠶の多寡は畢竟蠶兒の健全と欠ふ貯藏種蠶兒に比べ遙に優因すべし而も蠶兒の健全を謀らんと欲せば貯藏の飼育より優るはなし世人或は云ふ貯藏飼育の蠶兒は之を非貯藏種蠶兒に比するに發育緩慢なるが如しと此れ皮相の見にして其實際を知らざるものゝ言なり凡そ蠶種は氣候の變遷に遭ひ不規則なる寒暖に關るゝ時は遂に不順序なる孵化を促し發生の時期を惹り其次終の性質を失ふべし然して其發生の當時に健全なるが如く見ゆるも不規則なる寒暖に刺戟せられ感動せられて本然の性質を變化し過度の發育を爲し一見健全なるが如きも却て齊一の發生を爲す能はず眠起上撰擇て均一ならず其間諸種の蠶病を惹起するに至る然るに貯藏種飼育の蠶兒に至りては當初の發育緩慢なる如く見ゆるは其本性に從ひ期順を慰まらしめさる所以にして徐々發育前後齊一健全を保つを得るが故に蠶病の患なし隨て良好多額の結繭を得るは素より其所にして本年の成蹟に徴して亦明かなり

又一説に貯藏は自宅土藏に貯藏するも敢て異なるなしと云ふ是れ一刺なきに非らずと雖も普通土藏の如きは一時太陽の熱度を遮防するの具となるも藏中の濕氣を除去するの術なきが爲め却て蠶種に濕氣を含有し爲めに蠶種を腐敗せしめ偶々發生するも病蠶多く終に成繭を見る能はずと之に反して我貯藏庫の如きは寒暖を調防するは勿論第一濕氣を除去するの仕掛けあり故に蠶種に毫も損傷なく前陳の好結果を得るに亟らは則ち深く經驗を盡したる所なり

◎出張と歸京

曩に神奈川物産品評會に出張したる岡殺氏農學士田原休之丞氏靜岡縣米外八種共進會に出張したる農學士渡部剛氏全本多岩次郎氏製絲術講話の爲め福井縣下を巡回せし高橋信貞氏養蠶術講話の爲め山形縣下を巡回せし芝山直清氏は此程夫々歸京又岡殺、本多岩次郎、芝山直清氏の三氏は關東蠶絲業者の大會に臨場の爲め群馬縣へ出張夫より岡氏は秋田縣物産品評會審査長として直ちに同縣へ出張本多氏は一應歸京の上蠶業講話の爲め更に山梨縣へ出張の筈なり

◎特別廣告

左の諸氏は客月下旬より本月中旬に渉りて通常會員に加入されたり

◎入會者			
神奈川	小林升	新潟	近藤榮太郎
仝	河内庄太郎	仝	神田又一
仝	中村庭藏	仝	片山金藏
仝	曾我承緒	仝	市村彌惣次
仝	山口正平	仝	加藤勤
仝	小林伊六	仝	長谷川弘
仝	岩淵敬一郎	仝	星名敬太郎
仝	酒井市三郎	仝	酒井和三郎
仝	椎屋惣四郎	仝	市村俊藏
仝	市村與六	仝	熊倉勘太郎
仝	石田謹吾	仝	丸山龜次
仝	池田政市	仝	黒島太郎左衛門

仝　佐藤保太郎　仝　細貝房治　仝　篠田次郎
仝　井口理八　仝　瀬沼宮治　仝　松原五右衛門
仝　劍持玄龍　仝　堀井義文　仝　矢澤類
仝　磯部龍治　仝　小藪準三郎　仝　埼玉齋藤操
千葉　會田富太郎　仝　早川清治　仝　柿沼庫治
仝　喜田村清左衛門　仝　黑澤鎌太郎　仝　宮田耕太郎
栃木　金子金次郎　仝　田村彦次郎　三重　杉野傳七
靜岡　清田賢次郎　仝　渡邊喜三郎　仝　細井德造
仝　高橋平太郎　仝　山口傳吉　仝　土屋熙雄
仝　野田耕三　仝　石井保太郎　仝　太田小治郎
仝　鈴木菊藏　仝　黑田龜次郎　仝　清水善
仝　石川廣吉　仝　後藤重兵衛　仝　長野　千葉胤孝
仝　小原眞一郎　福井　山本九二三郎

計　六十二名

右の内にて小林佐藤杉野の三氏は各自に申込され他名氏より小藪氏に至る三十三名は青邊慶正氏紹介齋藤氏は木村九福氏紹介會田氏より當田氏に至る六名は津田尚人氏紹介金子田村の二氏は永島永七氏紹介清田氏より後藤氏に至る十四名及山本氏は轟木長氏紹介千葉小原の二氏は有賀喜三郎氏紹介

會費の儀追々御催促申上候處未だ御拂込不相成向も有之右は計算上の都合も候事故此際速に御納付相成度且又曾て廣告御依頼者の内にて該代金御滯納の向も有之會務整理上差支不勝候間是亦至急御辨償相成度特に及御請求候也

大日本蠶絲會